

西班牙もレガスピが比律賓群島を征服の時既に失兆を現はして居る、何故と云に西班牙の群島領有は其名の示す如く皇帝フィリップ二世の時代である、フィリップ二世は西班牙の歴史中最も重要な皇帝で佛蘭西のルイ十四世英吉利のエリザベス女王に比すべき人で有る、彼が皇位に在る間に西班牙の版圖は殆ど世界の全面に伸張した、比律賓群島領有後未だ十年ならざるに、彼は其競争の對手たる葡萄牙を併呑し其以前より領有せるネーザランド即ち今の和蘭白耳義を併せて、歐洲に於て最大の國土に君臨したものであつた、然れども其強大に誇るの餘り大艦隊（インピンシブルアルマダ）を組織し英國を攻撃の結果は大失敗で、葡萄牙西班牙兩國の最良最新の軍艦は英佛海峡の波に沈み爾來其久しく保有せる太



西班牙の海軍病院

平洋の海權に熨斗をつけて英國王に進呈することになつたのである、次で和蘭は獨立するのみか新に西班牙の競争者として印度海に打て出でた、ヒリップ二世死後の西班牙は國勢が漸次下り坂となつたのである、比律賓群島は西國全盛の頂上時代其領有に歸したのであるから其政治は本國の衰へると共に漸次腐敗の一方で、土人先づ叛亂し次で強力なる米國の一撃を食つて忽ち之を抛棄せざるを得ざるに至つた次第である、即ち取つた時が失ふ時の初で有つたので三百年間持つて居たのが不思議な位で有る而して其間比島に行はれた大罪惡は第一僧侶の跋扈第二官吏の腐敗第三僧侶官吏共同の營利で有る。

**僧侶の渡來** 西班牙が比律賓を征服し終つたのは千五百九十年頃である、然し其政制はレガスピ存生の時代（千五百七十一年頃）から漸次島内に實行せられたものであるレガスピのマニラを征服し本國に之を報告するや、ヒリップ二世は直に彼を比律賓群島の太守となし其部下の將士に島内の土地を頒ち與へることを許した、レガスピ乃ち呂宋、セブ、バナイ等の土地を各數區に分割して其一區域内に各一人の統治者を置いた、此數區を名けてエンコミエンドと云ひ、これを預る地頭をばエンコミエンドと云ふた、此制度は大分久しく存在したが、近時に及んで之に代ゆるに郡村の制度を以てした、其郡をプエブロと云ひ村をバリオと



云ふバリオの名は今日も猶襲用せらるゝので有る、西班牙時代には三十四州九百郡程に分れて居つたさうである、併し最初の中はエンコエミンド（莊園）組織で、其地頭は勝手に領内の政治を行ふた、其時分比律賓土人の数は總計凡そ七十萬人ばかり最初一家族から八ヘソ程の税を取立てた、當時比律賓は新西班牙即ち墨西哥政府の管轄で其財政の不足分は墨西哥から補給したもので、比律賓太守以下の文武官僧侶に至るまでも皆俸給を墨西哥から受けて居つたが、私慾を充す爲めの徴税は其以外に人民の頭に掛つたものと見ねばならぬ、其所で地頭等の仕事は唯地方の亂を鎮め課税を取立てるばかりで極めて簡單なことであつたが當時西班牙人の島内に在る者は僅か二千人到底一々村落を廻つて税を取立てることは出来ぬ、是に於てか委任徴收税の簡便法が案出せられた、比律賓人の言葉に村のことをバラングアイと云ふ、（バラングアイは元と船と云ふことであるが移して村のことになつて居る、是れ即ち彼等が海上より移住したる人間である證據である）バラングアイの長をカベサと云ふ（頭の義である）納税は總て此カベサに請負はせる、カベサは如何な風に其課税を村民に割當てやうとも兎に角一定の金額を集めて之を上納すれば宜いのである、然るに其後段々其徴税の課目が殖え不平も起り集金が困難になつて來た爲に、カベサは常に代納の姿になる其金が取立られないか

ら大抵の金持でもカベサを三年勤れば貧乏人になると云ふた位なものであつた、併し郡島政府はカベサの困難には頓着なく、壓制で以て所要の税金を取立て、居た唯カベサは首尾好く此勤めを果した場合には、ゴブルネルシリオと云ふ村長の如き役目に着き帽子靴を許される日本と言へば苗字盡刀で實益は無いが、一面は政府の命令一面は名譽心の要求が此難役を勤めさせたものである、然し勿論此の制度は比島人不平の一因となつたものである、唯レカスピ到着前は群島内の交通が甚不便で會長各島に割據しモロ人の來寇も亦屢々行はれ、強者は弱者を壓し富める者は貧しき者を虐げること勝手次第の如き状態であつたのを、西班牙人の力に依つて群島總て一政府の旗下に歸服し、海上の交通が開け、一定の政治組織の下に棲息し比較的安全の生活を爲し得るに至つたのは當時の比島人に取つて大に幸福で有つたと言はねばならぬレカスピは即ち我神武創業に似た事を



む 飲 を 酒 米 人 ノ バ ス



比島人に代つて比島に行つたものである尙それよりも島民に取つて幸福であつたのは耶蘇教の渡來で、其前は土人各民族の間に古來傳つた迷信、それにボルネオを中心とする回教が交つて宗教上にも亦稍混雜の狀を呈して居つた所に、彼のウルダネッタの引卒して來た所のオーガスチニアン派の僧侶を眞先に、ドミニカン、フランシスカン等の僧侶が續々入り來り島民の大半を一宗教の下に統一し、而して其僧侶は天文地理の學術に長じ間接に土民の智識を開き其思想に一大變革を來させた事は決して疑ない事で有つた、西班牙は極めて容易に比律賓を征服し得た、二十世紀の進歩せる米國人の方が却て多く比島人の抵抗に苦められた、其原因はいろ／＼有らうが第一に武器の精銳なること、即ち西人等は堅甲を穿ち鐵砲を有し、鎗刀等に於ても西班牙製は土人の投鎗カンピランに優つて居た、第二に航海術、西班牙は數千里を隔つる太平洋上を何の苦も無く往來したのみならず、群島内の交通を恰も陸上の如くならしめたものである、第三は其政治組織、即ち纒に野蠻の域を脱した土人を治むるに進歩せる歐洲の政治思想を以てし、治安を保ち公平を維持するに長じて居た點である、第四は即ち宗教である、此時分の耶蘇教は前にも一言する通り、歐洲で新思想勃興に刺戟せられた教團の僧が天涯地角到る處に其宗旨の旗を樹立せんと欲したる熱心と、國家の威力の擴大するに従つて、外國

の人民を宗旨に引入んとする國王の欲望とが相合して非常なる勢力となつたものであるから、マゼランでもレカスピでも半は宣教師のやうなもので其後には又澤山の坊主が居て一地方の征服が終れば直に十字架の旗を押し立て、其人民を耶蘇教に入れることに盡力する、最初に臨み、風俗習慣を無視し、只管其思ふが儘に統御せんとする、兩者の間好く言語も通ぜない



竹製オルガン(一六九七年ラスピニアス造る)  
マニララスピニアス寺に在り

の中は此兩者の結合は西班牙ばかりで無く比律賓人に取つても利益であつた、と云ふのは新たに地頭となつた所の西班牙人は固り武人であるから、何の遠慮もなく優勝者の態度を以て人民



のであるから、土民の不平は疏通するに由なく、鬱滞の極發して一揆騒亂となるもの類々として相踵いだのである、此場合に當り右の僧侶の輩が博愛仁慈の旗を翻して兩者の中間に割て入り、上下の意思を融通すると云ふとは頗る雙方に取つて宜いのであつたに相異ない、其所で僧侶は次第に民間の信用を得て其地歩を地方に占める、僅々數年の後には確乎援く可らざる勢力となつた、僧侶の數は最初から四百人もあつた、新たなる地方を開拓するのであるから、互に衝突を避けて、オーガスチニアンはピサヤン諸島、イロカノの海岸、バンガシナン地方、バンバンガ地方などを主とし、ドミニカンはバンガシナンから東方カガヤンの谿谷一帯を主とし、フランシスカンは東南カマリンスより南方呂宋湖水地方までに其勢力を擴張すると云ふごとき有様で、銘々本國から豊富な金を持ち來り、比律賓で到底觀る可らざる煉瓦造大理石張りの寺院や僧堂を建築して、莊嚴なる儀式金色燦爛たる祭壇とを以て人民の信仰を惹付けることに努めた、同時に又彼等は其僧院内に學校を設け、土語を以て普通學を教授し、尙又マニラの本山には大學を建築し拉典語を以て天文醫學法律等の學科を教授することを初めた。

僧侶と政廳との衝突 前に言ふが如く政治上に於ては西班牙の勢力は漸次歐洲列強の競争圏内から驅逐せらるゝ如き有様であつて、國勢次第に衰へ長鞭馬腹に及ばざるの譬で其墨



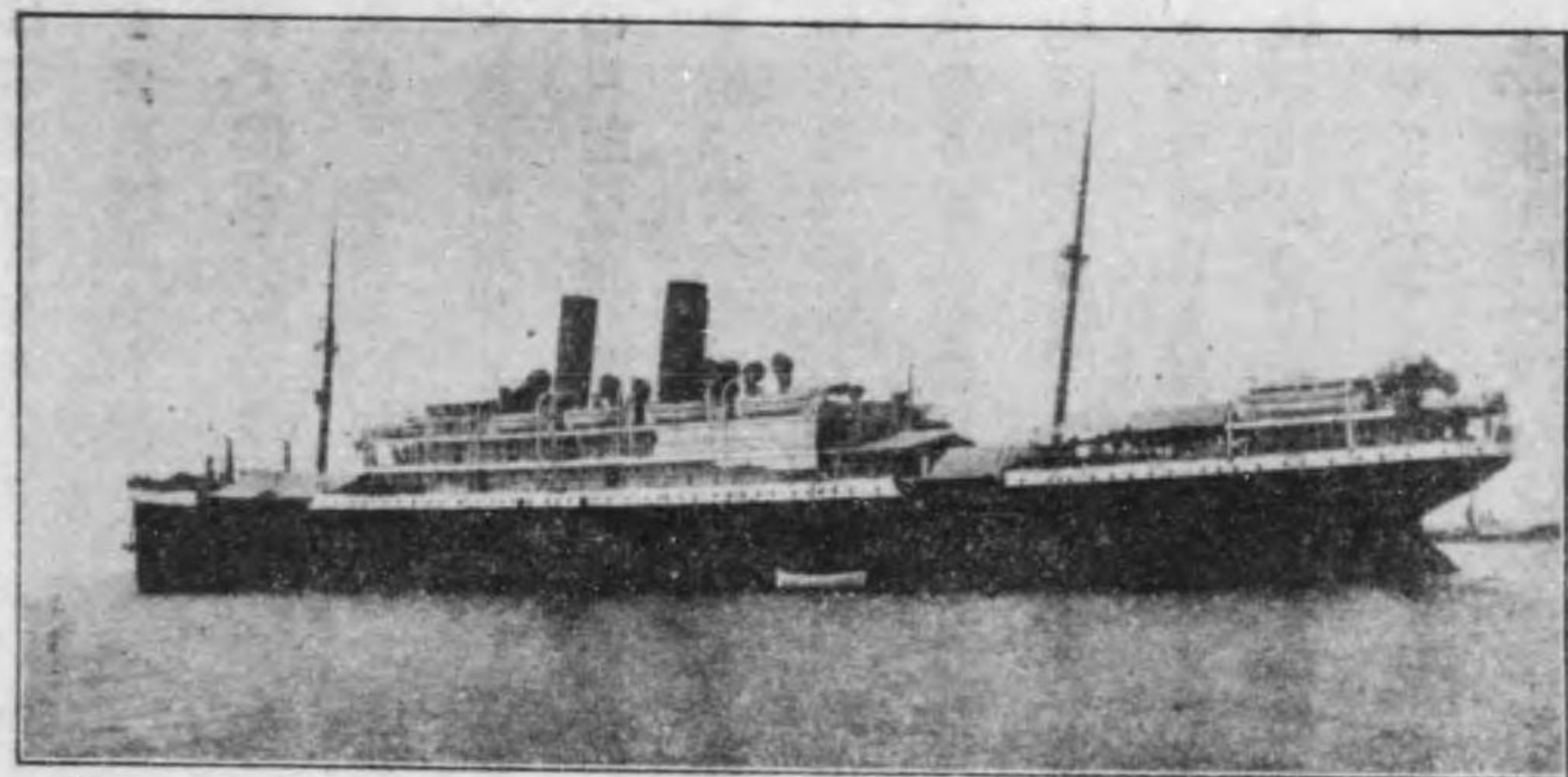
西哥や比律賓との關係は漸次薄弱になる一方であつたが、之に反して僧侶は益々比律に根據を据ゑて、地方に於ては總ての役人より以上に權力を揮ひ、租税の收支裁判の仕方等にまで容喙するに至つたのである、西班牙政府は其内政の不振につれて政治上にも一定の方針を缺き、永久的施設を爲すこと能はざりしと見を總督の更迭頻々相踵いのだ、三百年間更迭したる太守の數を算へると百十製五人の多きに及んで居る、此の如き官吏が地方に造入り込んで事情に通じ民心の呼吸を飲込んだ僧侶にどうして敵しやう果は官吏の任免まで僧侶の容喙する所となつた、然し中には氣概のある太守も來るから衝突は時々起る、七人目の總督ダスマリニ阿斯(太閤時代)が始まりで千六百六十三年總督



となつたサルセド、千六百七十八年に總督となつたバルガスなど段々其感情の疎隔が強くなつた、而して僧侶の機嫌を伺つて其干渉を甘受した者は無事に役目を果すことが出来るが、然らざる者は僧侶の迫害に逢ふて、本國へ逃歸り若くは鐵窓の下に呻吟した、就中千七百十七年に總督になつたバスタメントの如きは白晝公然總督府に於て僧侶の爲に殺され、大僧正デラケスタなる者自立して比律賓太守を兼務したやうな事である、太守が僧侶に敵はない一原因は、西班牙の制度にレシデンシアと稱するものがあつて、新たな太守が任地に赴くと裁判所を開いて前任者治績を調べる、比律賓在任中僧侶と衝突した太守は假令無事に本國まで歸つても、其後比律賓で開かれた治績裁判で有罪の宣告を受けるから本國で捕へられ牢獄に投ぜられる、故に太守の多くは戦々競々として僧侶の御機嫌ばかり取ることになるのである、更に又他の一原因は西班牙から比律賓に來る太守以下の官吏多くは貧婪にして家財を蓄積することは考へ人民の休戚は眼中に置かぬ、故に僧侶に結んで居れば極めて急速に多大の蓄財が出来るから自ら亦僧侶の人形となるので有る、三には僧侶が地方に於て次第に勢力を得るに従つて人民を欺いて土地を横領し其土地を寺領として人民に貸す、寺領役人と坊主とが更に亦相謀つて機會ある毎に益々人民の土地を蠶食する、地主は小作人になり小作人

は宿無しになり宿無しは山賊となる、山賊が殖える正比例に僧侶の財力が膨脹する此寺領は大に米國政府を苦め、遂に一千五百万圓の大金を以て比律賓政府に其全部を買收したやうな事で僧侶の勢力は西班牙ばかりか米國政府をも左右する、斯う云ふ次第で以前の僧侶は地頭の如く又大名の如き地位に上つて、人民を勝手に使ひ廻はしたもので有る、而して此僧侶の多數は西班牙でも極くくの貧家に生れ僧籍に這入たデモ坊主で有つて其比律賓に來る唯一の目的は蓄財蓄妾邪慾を擅にして安樂に生活しやうと云ふことに在つたので有る、狼が法衣を纏ふたやうなものである、然し澤山の僧侶の中には真正に宗教者の本領を守り、神を敬ひ信者を憫む者もあつたに相違無いが、其多くは右に云ふ如き貪婪なる者で、多くは村内の容色佳き婦人を妾にして居つた、所謂メスチン（混血兒）が地方到る處に存在するのは即ち其結果である、比律賓委員會の書記ウキリアムス氏の著書オデシー・オブ・フィリップ・コンミッションにも其事が書いてある氏曰く、「僧侶の蓄妾は到る處に行はれた、比律賓紳士中其血統を此等の僧侶に引く者公然として其事實を自ら語りて愧ぢない、ドン・フィリップ・カルデロン氏はマニラの錚々たる辯護士であるが氏はタフト氏に語つて僧侶が比律賓人を妾として子供を生せることは最も普通なることである、何人も從來之を恠しみたること無し、地方





(留繋にーブセ)スーリア・スリブ船獨

の人民は習慣の久しき却つて僧侶が其村内の婦人に關係することを喜び、妾になりたる少女も亦之を榮とする如き状態に立至つたのであると云つた、而してカルデロン氏は紳士中僧侶を親とする人々の名を書したる紙をタフト氏に與へ先頭に己の名を記し附記して曰く、余の母も亦僧侶の子であるから我家は余を以て第一祖とする此混血の事を發表するも對して愧づべき先祖無しと」僧侶の所業は實に斯くの如きものであつた、我國に於ても千年以前僧侶の跋扈したる時代には、之に似たる話が随分多かつたが、武臣專權の世となりてより彼等は政治上の干渉を試ることが出来なくなつた、従つて比律賓に於けるが如く人民憎惡の標的となるに至らなかつた、僧侶輩は斯く信徒の財産を横領し婦女を姦し官憲を壓迫して政治上に勢力を揮ふと共に永く其非行を繼續するには人民の智

識を開かざるに如かずと考へ最初自ら設備したる教育を怠り、寺院内の小學校は専ら宗教上の事に關する問答の如きものに止め、大學に於ては西班牙語の代りに拉典語を用ひ支那の科擧の如く無用の學問で青年を生理にすることを工風した、多くの大守中には西班牙語の教育を施さんと企てた者も幾人かあつたが、常に僧侶の妨害する所となつて、近頃まで實行に至ら無かつた、但し僧侶も比律賓人中に味方を有することに必要だから少數富豪の子弟を限り西語を學習するの便を與へた、此等の比律賓人の西語を學んだのは高僧大官に近接せんとするの虛來心と僧侶に結托して自己の貪慾を満すに便するが爲で有つた、されば僧侶の勢が餘りに強大であつた爲に比律賓の人民は教育を妨げられ、正義を蹂躪せられ、財産の安固を失ひ、訴ふるに所なき悲惨の境に立至つたのである、來世天國に入ることを受合はれても現世は地



椰 子 の 發 芽



獄にされた、是が千六百年より千七百五十年代に至る間の状況であるが、是と同時に西班牙の誤れる商業政策は又大に比律賓の發達を妨害した。

誤れる商業政策　讀者の既に知れる如く、比律賓は西班牙が征服した時決して野蠻未開の状態ではなかつた、マニラは三萬有餘の人口を有して東洋に於ける貿易の一大市場であつた、有名なる西班牙人モルガの記す所を見ても、其支那南暹羅印度及び日本より來る所の貨物の數量は夥しきものであつて、其品目も數百に亘つて居る、今で言へば香港の如き處であつた、隨て比律賓の人民は農業に於ても商業に於ても相當の發達をなして居つたものである、西班牙は此島を領有したる當時は稍外國との貿易を獎勵するが如き有様であつたが、暫くして大に退嬰主義を取り比律賓の外國貿易は悉く墨西哥を經由するものと定め、墨西哥と比律賓の間には年々唯二隻の商船を送るばかりに決め後には遂に又之を一隻に減じて仕舞ひ、其貨物も銀貨二十五萬ペソ以上に上ることを得ずと云ふが如き規定を設けたのである、恰も我國の徳川幕府が貿易を長崎一港に限り、其船數を和蘭一隻支那二隻と云ふ如く限つたと同じやうであるが其趣意は大に違ふ、西班牙が斯の如き政策を執つたのは墨西哥に對する本國商人の商業保護策で、米國政府が千九百九年まで比島の商品に輸入税を課したと同一

筆法で有る、其結果今まで發達せんとしつゝありし農工商業に頓挫を來し耕地は開けず工業は起らず却て三百年前よりも漸々に退歩したやうな有様となつた、而して比律賓人の多くが農民であつたので成るべく其租税の重荷を商人の肩の上に置かんとして種々の運動をした爲商人の負擔が段々に増加し比律賓人の商家は毫も發達せず、獨り營利に巧なる支那人のみが尙此障壁を越えて商業に従事し商權を壟斷するの結果を生じた、支那人は現今在留する者凡そ六萬人其昔貿易商として廣東より此地に來つた者が(支那人のことを比律賓に於てはサンダレーと云ふ、支那語で旅商人の義だとの事)次第に各地方に移住し三百年間に堅確なる根據を作て仕舞つた、而して西班牙人は初群島内の交通を便にし兼て南方モルッカ群島を經略する爲め、比律賓に造船業を起し比律賓人を使役し、盛んに大木を伐倒して船を造つた、船が出來上れば又比律賓人を船子に徵發して近海を乘廻る、海上生活に慣れざる比律賓人は甚しく造船業を嫌つて、種々の手段を講じ徵發を逃れ、甚しきは山地に逃隠れたので此肝腎の工業も潰れそれから又鑛山なども西班牙人が強制労働で之を開發しやうと試みた爲め、土人に逃げられ是亦近時に至るまでも一向開けて居なかつた、斯くの如く外國貿易は限られ、内國の商業は支那人の手に歸し、造船鑛山等の工業は絶滅すると云ふやうな次第で比律賓人の多



數は唯纔に土を掘つて食物を得るに満足するが如き有様となり、土掘りで剩し得た僅の金は彼の僧侶が種々なる方法を以て之を巻揚げて仕舞ふから、極めて貧乏なる状態で凡そ二百年餘りを経過したのである。

通商開始繁榮

の時代來る  
斯んな状態の比  
律賓が如何にし  
て今日のやうな  
椰子麻烟草の産  
出國となつたか  
と云ふに、世界  
の大勢が自づか

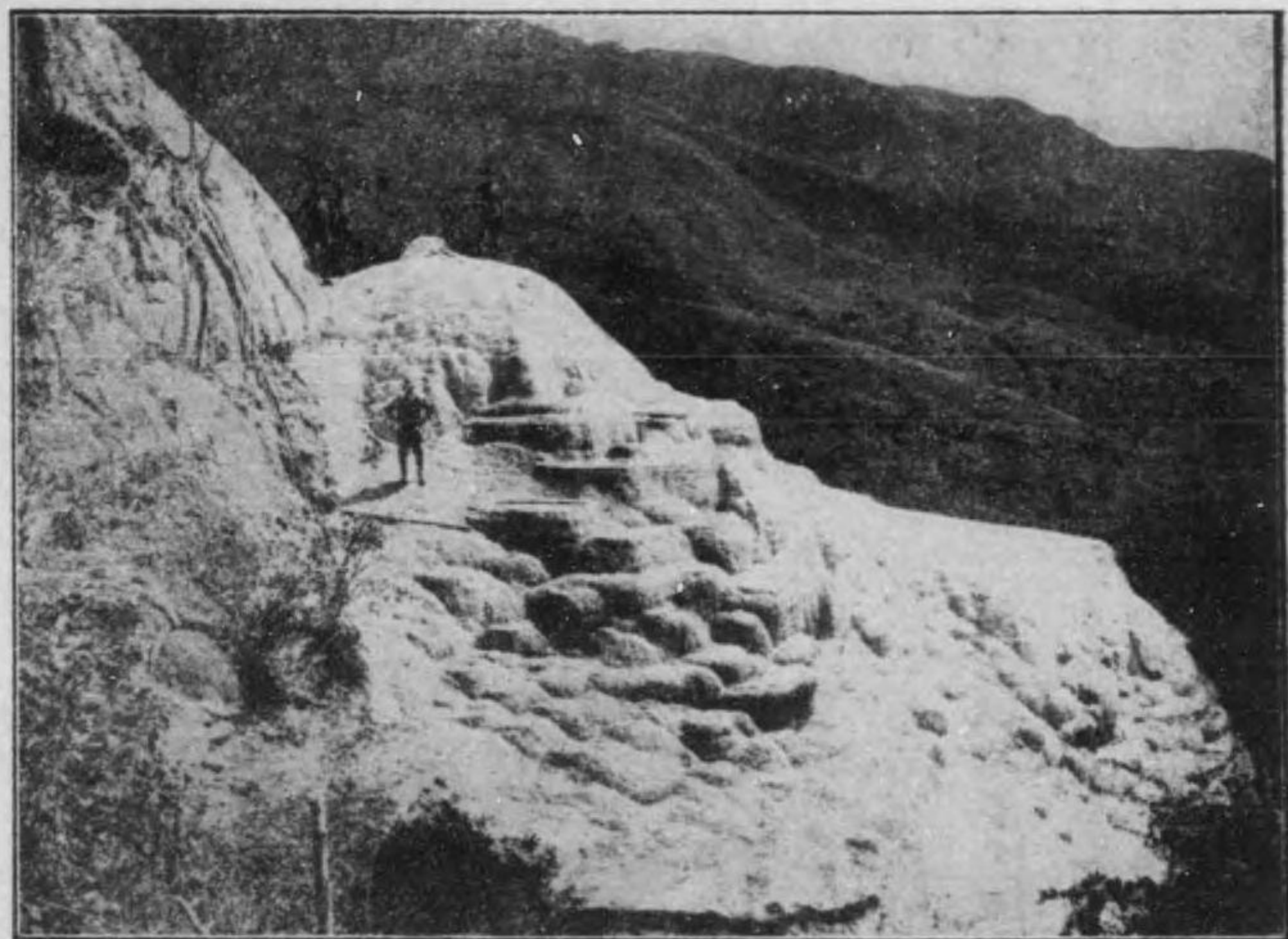


(し近に館事領本日ラニマ)寺ンヤチスバセンサ

とであるから、心ある太守は皆比律賓に産業を起し収入を適合せしめやうと考へたものだ、其中に千七百七十年比律賓の太守となつたドン・シモン・デアンダと云ふ人がある、此人は千七

百六十二年に英國が比律賓を占領した時に比律賓に居つて大に防禦に従事した人であつた、英國が比律賓を占領した理由は當時英國は世界の各方面で佛國と戦つて居つたが、佛蘭西の王室と西班牙の王室が親族の間柄であつた所からして、千七百六十二年遂に兩國の間にも開戦するととなつた、英吉利人乃ち印度からシポイ兵を引卒して來て二年間比律賓を占領したのである、其後和議成つて比律賓を西班牙に返却したが、アンダは此事件に携つて大に比律賓の状態を憂へ、千七百六十八年一篇の建白書を西班牙皇帝に呈出し僧侶が其本職を忘れて金儲に従事し、土人を壓制し西班牙語の普及に反對し、行政上に容喙する等の弊害を攻撃し、此弊を一掃するには國法を勵行し有害なる僧侶を本國へ送還すべしと云ふことの意見であつた、アンダは斯くの如き人物であるから、其太守となつて再び比律賓に來るや、先づ僧侶に向つて鐵槌を下し大に比律賓の状況を改善せんことを努めた、今マニラのバシグ川の川畔に屹立するのアンダの碑は即ち此總督アンダの功勞を記念するものである、然しアンダも十分に其目的を達せずして死んだが、後繼者たるヴァスコと云ふ太守彼の遺志を繼ぎ銳意比律賓の改革に従事した、彼は先づ此國を富ませざる可らずとて「經濟策」一篇を發表した、之に依れば盛に木棉を栽え桑園を開きて大に蠶を飼ふことを勉め、米及砂糖の耕作を獎勵し尙此





ケチャンの鹽山

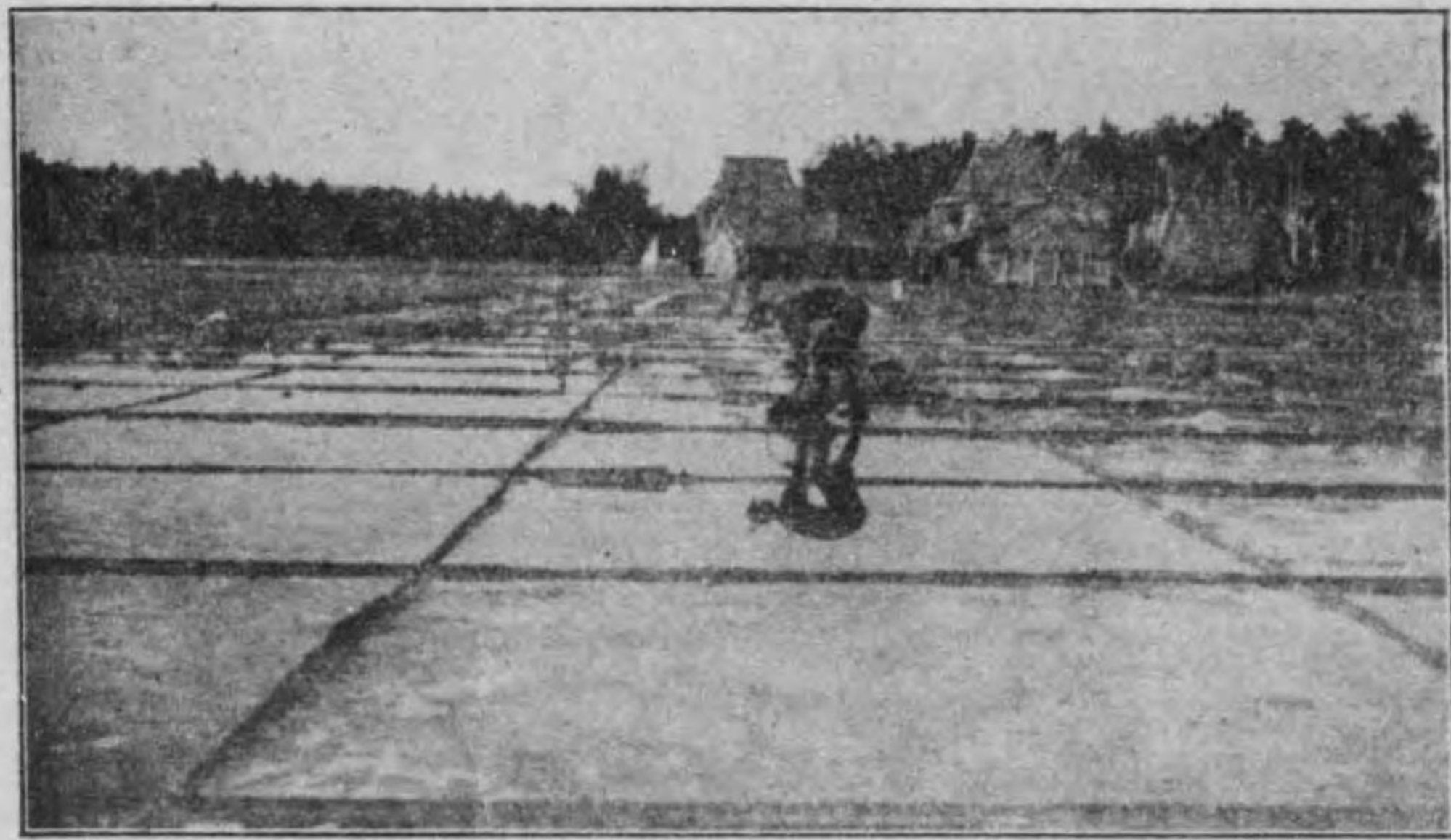
國土に適する諸般の工業を起すべしと云ふので有つた、彼は先づ一の「經濟協會」を創立したが、此協會は彼の去つた後凡一百年間繼續して種々有益な事業を比律賓に起した、千七百八十二年にヴァスコは煙草專賣法を創めてカバヤン谿谷に煙草を植ゑ、尙又ピサヤン諸島に大に煙草の栽培を獎勵した、其收入によつて墨西哥の補給額を若干減少した、兎に角此ヴァスコの農業獎勵及經濟改革策は比律賓の面目を一新し、千七百八十五年には比律賓會社と云ふ一大會社が本國の商人に依つて設立せられ、是れまで墨西哥との間に年々一隻と限られて居た商船の外に比律賓の生産物を西班牙に輸入

するの道を開いた、而してそれまでは東洋の貨物は一切西班牙に輸入することを禁ぜられて居つたのであるが、此時に初めて東洋諸國の貨物をも西班牙に輸入し得ることになつたのである、而已ならず此會社は尙印度及支那の商人と直接に商賣することも初めた、而して千七百八十九年には初めてマニラの港を外國船の爲に開いて三年間は自由に貿易することが出来るやうになつた、唯此時亞細亞の商品だけは外國商人の手で輸入することを許さなかつたが歐羅巴からの輸入品は勝手に外國船でマニラ港へ持て來ることが出来るやうになり、今迄氷に鎖されて居たマニラも自然に世界の風に吹かれんとする機運に向つて來た、唯惜むべきは西班牙はナポレオンの蹂躪を免かれた爲に却つて歐洲の新風潮に乗後れ、舊思想を墨守する政策の改まらざりしところから千八百十年より二十五年に至る間に悉く其大なる墨西哥及南米の領地を失つて仕舞つた、其中墨西哥の獨立したのは千八百十九年であつて其結果比律賓は本國の直隸州となつた、然し此出來事は比律賓に取つて有難い事で本國との商賣が直接に出来ることとなり喜望峯經由で西班牙から船が來る、恰度千八百三十年には彼の比律賓會社の免狀も其效力を失つたので諸外國の船も次第に比律賓に入港することとなり、千八百三十七年にはマニラ港は改めて外國貿易の爲に開かれ、千八百五十五年にはリンガエン灣のスマル



港、バナイ島のイロイロ港、ミンダナオ島のサンボアンガが次第に外國貿易の爲に開かれ、千八百六十三年にはセブも亦開港された、而して千八百六十八年には世界の通商状態を一變した彼の蘇西運河が開通し、歐羅巴と東洋との距離が近くなつた爲に、歐洲の船は續々比律賓へ渡來することになり、同時に潑潮たる歐洲の新思想が堤を切つた如く比律賓へ注入し始めた、而して其貿易の繁盛に伴ひ煙草麻椰子砂糖等の耕地が次第に其區域を擴張して、千八百三十一年に僅に三百四十噸に過ぎなかつた比律賓麻の輸出高が千八百五十八年には二萬七千五百噸に増したと云ふやうな事になつて來た、其所で此等の耕作に従事する地方の人民は亦自然に生活が樂になり、從來比律賓に見無つた小財産家が各地方に續々頭を擡げるやうになつて來た、而して此等の財産家は自ら其子弟を教育するの欲望を起すのが順序であるからして、マニラには追々青年が集まり、更に進んでは西班牙までも留學と出掛けるものが殖えて來た、此子弟等が歐洲の思想と事物に觸れた結果は即ち政弊改革の叫聲となつたのである。

僧侶の不人望及叛亂 僧侶に對する不平は長き西班牙の統治中絶えず繼續し近世に至るに従て益々其甚しきを加へて來たもので、其間時々各地方に一撥が起つたが、叛亂若くは革



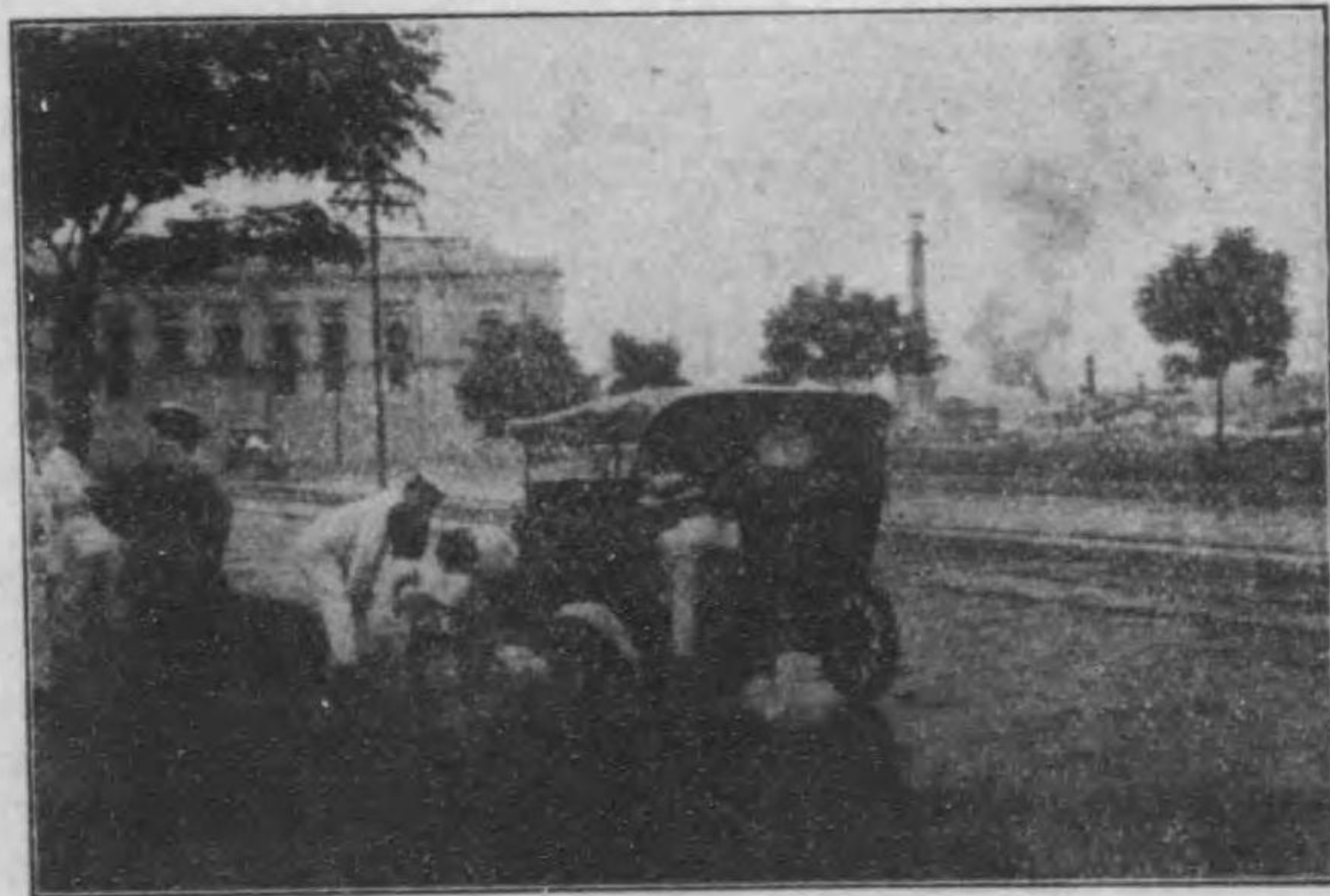
田 壟 の ガ ン ア ボ ン サ

命の名稱を與ふべき大なる計畫は世界の風潮外面より之を促すに至つて初めて生起したのである、其發端は西班牙本國で民權論が勝を占めて千八百十年頃一時議院が權柄を握つた事がある、其時に西班牙の議會は「亞細亞及亞米利加に於ける西班牙の領土は悉く西班牙王國の完全なる版圖であつて其人民は總ての權利に於て本國の人民と同等である」と云ふ宣言を發した、比律賓には其以前雇役の制度があつて一年の間に若干日は人民は皆一定の勞役に服する規則であつたが、人民は此宣言を見て今後吾々は本國の人民と平等である最早勞役に就く必要はないと言つて大に喜んだ、所が其後千八百十四年に至つて王權が再び盛んになつて、前の國會の宣言を取消した、比律賓人は是れ吾々を再び奴隸の状態に置くも



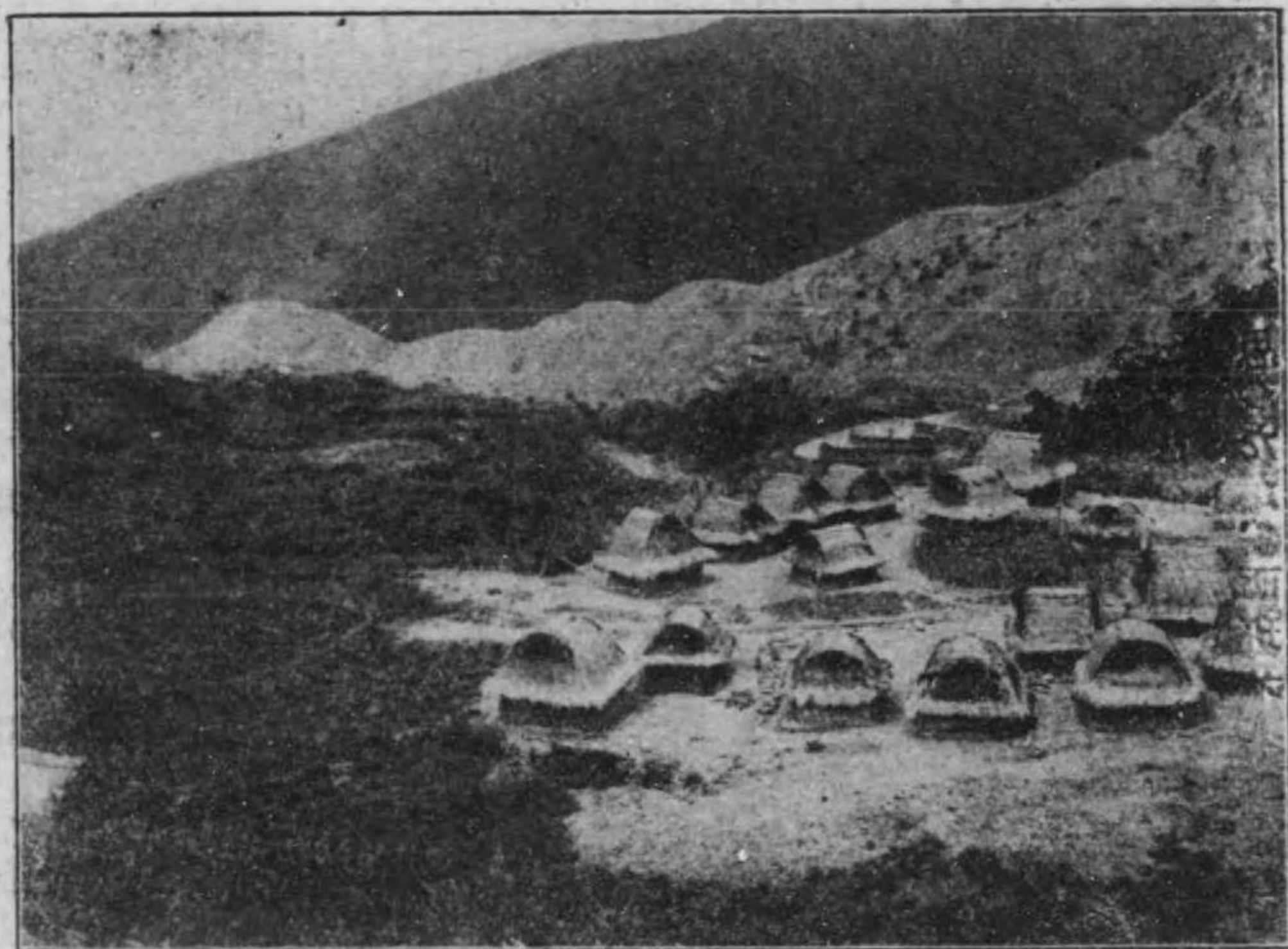
のであると云つて大に憤り、イロコス地方に於ては千二百人の人民が隊を組んで寺院を襲ひ、建築物を破壊し、郡役場に侵入し記録を引破るなどの亂暴を働いた、併ながら是は唯其雇役に當る者が憤を漏したのみであつて、政府に對する反抗とは云ふことは出来なかつたが、千八百二十三年に起つた騒動は稍騒亂の形を備へた、それは從來比律賓に於ける西班牙の將校は悉く本國以外に生れた者から採用したのであるのに、其時に至つて殖民地生れの將校を廢して本國生れの將校を其位置に据ゑやうとした、そこで比島生れの西班牙人が大に怒つて八百人の同勢を募りマニラに一揆を起し、官衙を占領すると云ふ如き有様であつた、併しマニラ城を乗取る能はざりし爲に脆くも失敗して刑に就いた、其以前からボホール島は屢々騒動の起つた處だつたが千七百四十四年に土民がヘスイット僧侶を殺しダゴホイと云ふ者を首領として一の小共和國の如きものを立て、久しい間西班牙人に抵抗した、千八百四十七年に至つて之を降伏せしめんと謀つたところが却て其叛亂が大きくなり、やつと亂徒を破つて山中に追込むことが出来た、然るに千八百四十一年には奇妙なる事件が呂宋島に起つた、アポリナリオ・デラクルースと云ふ比律賓の若者稀有の秀才で大學教育を受けて僧侶になり非常に説教に巧みであつた、此者が修道院に這入つて教團僧（フライヤー）になりたいと云ふ

希望を起したが、土人は一切フライヤーたることを許さぬと云ふて拒絶された、そこで彼は故郷タヤバス州に歸つて一の教會を創立し、マニラの本山に向つて認可を乞ふた所が、土人にして教會を始めるとは不届千萬と云ふので州知事に命じて彼を捕縛しやうとした、アポリナリオは之を聞いて山中に逃走したが其信徒がラグナ、タヤバス、バタングス州に跨り數千人に及んで居るので、知事は先づ彼を生擒するを良策なりとし、兵を率ゐて其山居を攻めた所が、却て信徒等に斬崩されて自分は其場で討死した、アポリナリオは推されて叛軍の首領となりタガログ王と號するに至つた、其後フェット將軍なる者兵を引いて彼を伐ち終に其亂を平定するに至つたけれども、是が爲に西班牙政府は自から其鼎の輕重を示した、アポリナ

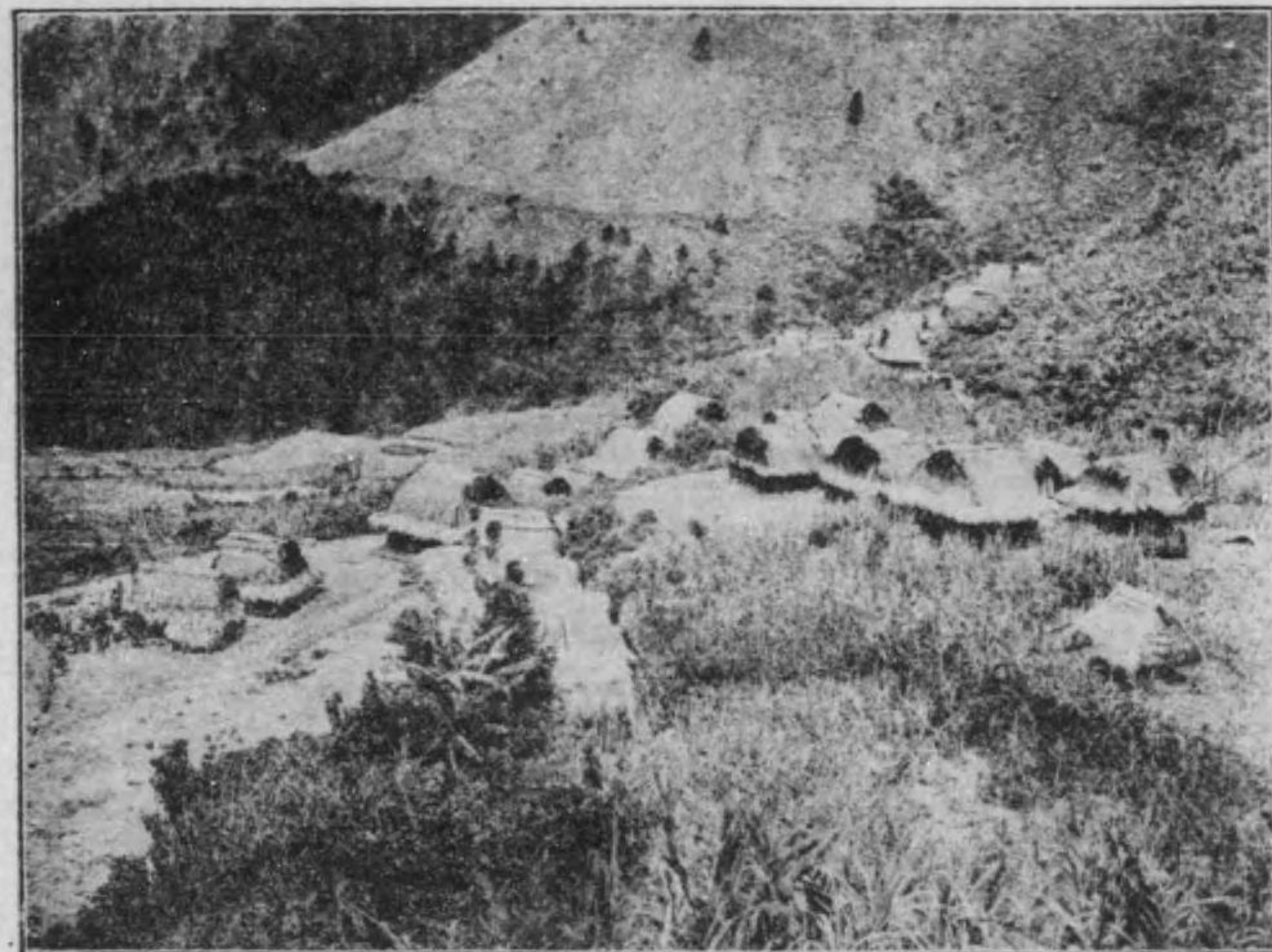


アダン記念碑の遺望





爲に氣焰を吐くと云ふことになつたので、西班牙政府も段々顧る所があり千八百六十三年に勅令を以て、玖瑪に行はれて居る所の學校制度を比律賓にも及ぼすと云ふことにした、同時に又一時禁制になつたヘスイット宗は法王から罪を赦され専ら教育に盡瘁すると云ふ誓の下に比律賓に歸り來り學校を設けて兒童を教ゆることになつた、故に此時代から米國占領に至る間に數百の小學校が國中到る處に新たに開かれた、而して其終りには外國語學校、航海學校なども政府の手で設立され、大學校の教授も或程度まで西班牙語を用ゆることになつた、併ながら其改革は極めて牛歩的で比律賓人の希望に叶はざるのみならず、僧



ボントックの山村

リオ死する時に年僅に二十七歳で今に至るまでも其地方で大に惜まれて居る、斯くの如く西班牙政府の失政からして叛亂が屢々各地に起る其一方には比律賓の青年の間には益々新思想が蔓延して頻に自由を欲し權利を主張し、虐政を憤るの言論が盛になり、新たに各地に出來た金持は亦陰に之を扶けると云ふ如き有様であつた、而して比律賓よりも西班牙本國の方で其運動が次第に勢力を増し、西班牙人の中にも比律賓人に同情を表して惡政を一新しやうと云ふ者も少なからず出來て來た、同時に又マニラを始めとして各地に新聞紙雜誌の類が創つて比律賓人の



侶は比律賓人の斯くの如く教育に關する希望を述べ、益々これを壓迫しやうと試みた處から遂に其兩者の間に火花を散らす争闘が出来たのである、而して此の兩者の争ひに油を注いだのはトリレ太守の態度で有つた。

トリレ太守の政策 千八百六十八年即ち蘇士運河開通の年に西班牙に於ては大騒動が起つて、女王イサベラ二世は廢せられて初めて西班牙に共和國なるものが出現した、其時新なる共和國の太守として比律賓に送られた人はデラ・トリレ將軍と云ふ人であつた、此人は非常に勇敢な將軍であつて屢々實戦にも功を樹てた人であるが、純粹無垢の平等主義で、彼のマニラに來るや古來の太守が墨守して來た儀式を全廢し、何事にも簡易活潑を主とし、平服で馬車に乗り市中を巡回することを始めた、是れ位のことさへも比律賓では破天荒であつて守舊黨の眼を驚かした、トリレ將軍の考は成るべく比律賓人の行動を自由にし其欲望を満足せしめて西班牙との間に密接な關係を維持したいと云ふことであつた、此時幸にも政變に依つて本國人も土人も同等の自由民になつた所から、トリレ將軍は此島民も完全なる西班牙の國民であると云ふ思想を盛んに鼓吹した、比律賓人は此將軍を得て大に悦んで前途に大光明を認めたと如く思つたが、西班牙人や僧侶は大に驚き全力を盡して將軍の政治を妨害した、

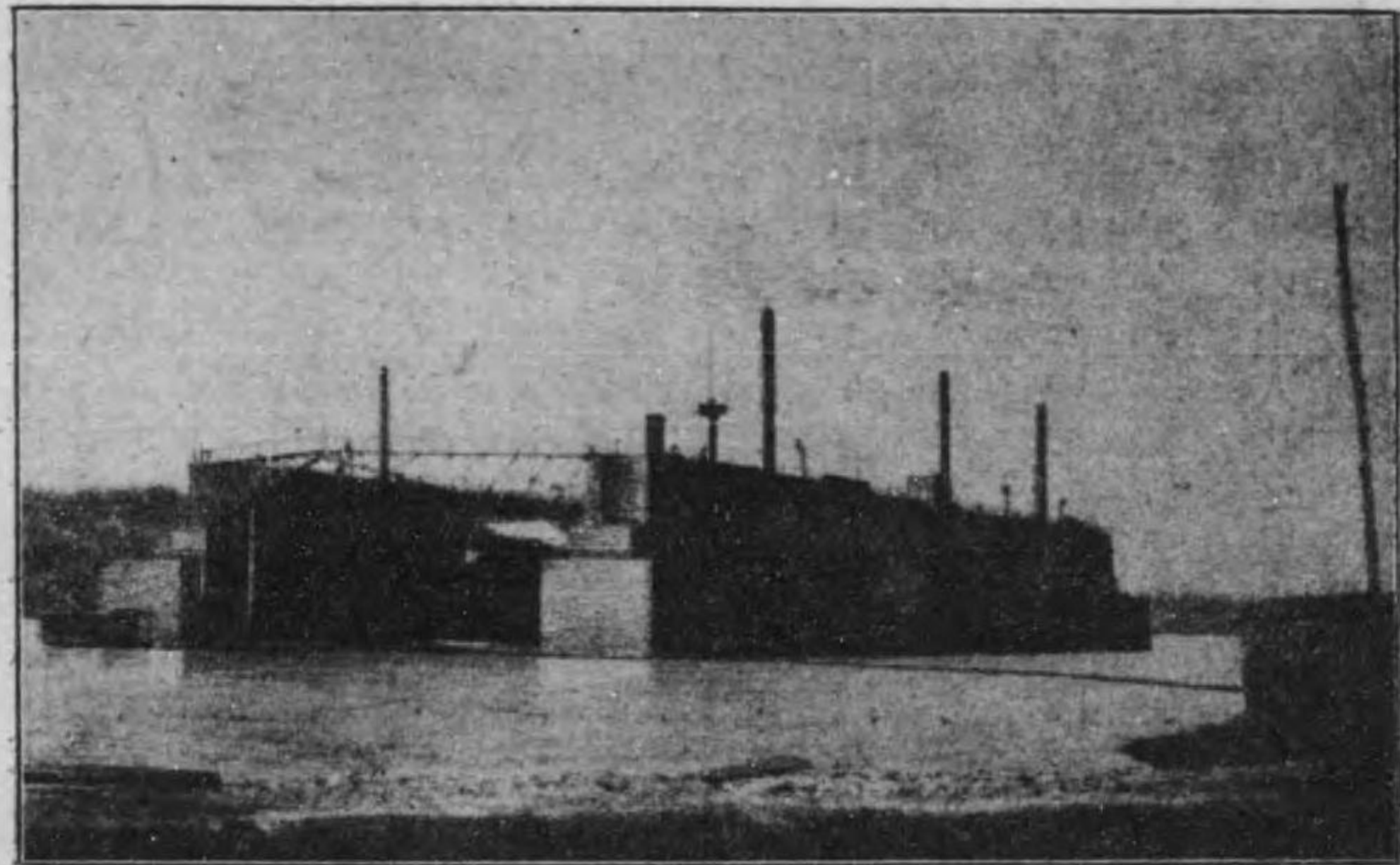


イロコシ人(鹿) (委)

就中僧侶は最も此施政を好まざるもので、隱に陽に非常なる壓迫と妨害を將軍に加へた、將軍も大に是が爲には苦しめられたが、比律賓人はこれを見て益々僧侶や官吏を憎み改革の希望は彌益旺んになつて來た、元來此比律賓で幅を利かして居る教團派の坊主は單り比島政廳と喧嘩をするのみならず、亦最初から羅馬法王の直轄たる正教僧侶とも仲が好くなかつた、一體全島の各教區は殆ど悉く此等教團派の手中にあるのであるが、其各派は又羅馬法王の支配の下に在るものであるから、マニラに居る所の羅馬教本山の大僧正は各教區の政務を自己の監視の中に置かうとする、それを教團僧が拒んで肯かず勝手次第に振舞つ



たので、大僧正との間も頗る面白くなかつたのである、茲に本派の坊主の中にホーセ・ブルゴ、  
フアーザー・ゴメス、及びフアーザー・サモラと云ふ三人の土人僧があつた、此等は大に教團派  
の爲す所を憤り彼等を此群島より驅逐すべしと云ふ希望を以て一の團體を作つた、所が不幸  
にして其時西班牙では共和政治が顛覆して再び王政の世の中となつた爲に舊派は益々勢ひを  
得て、新派は屏息せざるを得ざる勢ひになつたが、是にも屈せず此土人僧等は教團僧の放逐を  
計畫して千八百七十二年にカピテの海軍工廠の土人兵二百人と牒合せて叛亂を企てた、然る  
に不幸にして謀事漏れ、三人の僧侶は捕へられてマニラのバグンバヤンで銃殺の刑に處せら  
れた、然れども一旦覺醒し來つた比律賓の青年は決して其自由を求むるの運動を中止する筈  
がない、彼等は彼の秘密結社フリーメイソンの團體に這入り比律賓に其支社を設けてメイソ  
ンの集合に托して屢々改革運動の會合を催した、それから又西班牙ではイスバノ・フィリピナ  
協會と云ふものを設けて、西班牙人も之に加はり比律賓の現状を弘く歐洲人民に訴へて改革  
を促がす手段とした、彼のホーセ・リサルは即ち此人心鼎沸の際に世に現れて出たものであ  
つて、メイソンにも加入し又イスバノ・フィリピナ協會にも名を列ね其後に比律賓青年のマド  
リッドで出版したソリダリダッドと云ふ雜誌にも初號から寄稿して大に比律賓人の爲に枉屈



(ボガンロオ) - エウウ ユヂ 渠 船 浮

を伸べたのである、彼が此間に書いた彼の二  
つの有名な小説で、是が爲に一層比律賓人の中  
に改革の精神を沸騰せしめた、一方に於ては斯  
の如く文學的平和的運動が行はるゝと共に比律  
賓島内に於てはカチブナンと云ふ秘密結社が出  
來、アンドレー・ボニフアシオと云ふ青年が其牛  
耳を執り、惡僧等を驅逐し進んで西班牙の群島  
政府を顛覆しやうと云ふ計畫を爲して居つた、  
而して其運動は水の浸み込むが如く各地に潤み  
通つて、千八百九十六年には一舉にして悉く西  
班牙人を殺して仕舞はふと云ふ陰謀が企まれて  
居つたが、其の計畫者の一人の妹が坊主に密告  
した爲に、計畫が露顯して澤山の人民が縛られ  
た、其中一千人は亞弗利加の西岸なるフェルナ



ンドボトと云ふ西班牙の牢獄に送られ、又若干人は地中海中のシグタと云ふ處の城砦に送られた、けれどもカチブナン連は尙も其計畫を續行して遂に呂宋の南方カルーカンで叛旗を擧げサンブアン・デルモンテと云ふ處で戦争を始めた、然るに不幸にして其叛軍は戦に敗れ主魁バレンスエラは生捕られて同じくバグンバヤンの露と消えた、けれども是が動機となつて其後バンバンガ、ブラカン、ヌエバエシハ等の諸州に續々叛亂を起す者が出来て此地方の西班牙人は僧俗を問はず悉く殺害され、若くは追拂はれて仕舞つた、其運動の本源はマニラに近いカビテにあつたのであるが、此處には西班牙の軍艦も居り軍隊も居つたから容易に叛旗を翻へすことが出来なかつたのを一人の冒険家が現れ衆を率ゐてカビテの工廠を襲ひ西班牙の勢力を根本より覆へさうと試みた、是即ち彼のエミリオ・アギナルドで我國の御維新で言へば蛤御門の戦、アギナルドの男振りは久阪玄瑞であつた、此時西班牙は一千五百の兵を呂宋に有して居つたのであるが、西半球のキューバでも此前からして叛亂が起り、西班牙は澤山の兵を送らざるを得なかつた、それにも拘はらず比律賓も事重大とあつて遂に二萬八千の西班牙兵と若干の土人兵を以てカビテを守りアギナルド軍と戦ひ一旦アギナルドを撃退した、所が其時彼の國民の愛慕するリサール博士が西班牙からマニラに送還されバグンバヤンで銃殺

された爲め僧侶を憎むの情は火の如く國民の心中に燃え廣がり彼方でも此方でも一揆が起つた、アギナルド將軍はビアクナバトと云ふ處に退いて居たが銃器彈藥不足の爲西班牙人を國外に驅逐する事が出来ず、西班牙人も亦敢て之を攻撃する勇氣が無い、新太守リベラは才覺を以て事を收めやうと考へ恥辱にも叛徒と講和し八十萬圓の金を拂ひ、若干の改革を約束してアギナルド將軍に部下を解散して貰ふた、將軍乃ち比律賓を去り香港に行つたが是は再舉を謀らん爲で有つたに違ひない、リベラも横著だから約束の金を六十萬圓しか拂はない、約束の政治改革も實行せぬアギナルド將軍が再度の旗揚は唯時日の問題となつて來た、其所に突如として米西戦争が始まり、亞米利加人は其優勢なる艦隊を以てマニラを攻撃しカビテの西班牙艦隊を一撃の下に海底に葬つて仕舞つた、アギナルト將軍は提督デユウエーの援助を得て歸國し舊部下を招集して義軍を起した、暫くして米國の陸兵が到着しマニラ城は朽木を、倒すが如く陥落した。

以上略言するところが即ち西班牙が比律賓群島を失つた順序であるが、扱て今日の比律賓は如何亞米利加人が如何なる改革を此憐むべき比律賓人に向つて加へ、其幸福を増進したか、此等の事を一瞥した後更に將來の觀測に及ぶべきで有る。



### 米國旗下の比律賓

米國が千九百九年の巴里條約に依つて西班牙から讓與を受けた比律賓群島は、前記の如き宗教政治の腐敗に因つて物質精神上共に貧弱を極めたものであつた、其所で米人は領有以來大善政を行ひ比律賓人を精神的に解放し、且之に物質的の安樂を與へることを努めたのである、米國人の眼に映じた西班牙の失敗はジャーニガン氏の著「比律賓市民」に下の如く數へて有る第一は官吏監督の不行届、是は政府の下級官吏が上官の意思を無視し不届な事を行ふを意味する、第二は裁判の腐敗及執行の遅延、是は前章に言ひ漏した點であるが、最初西班牙の軍人が各地方の地頭になつた時地頭即ち裁判官であるから意志を以て公事を判決し情弊百出當時の教團僧の爲めに大に攻撃せられた、然るに教團僧が勢力を得るに及び裁判の不公平司法官の賄賂收受等の弊害は改まらざるのみか却て僧侶輩の結托の爲めに其非理不法が増長したのである、人民より僧侶を相手取つて訴訟する場合の如き到底勝利を得るの望みなきのみならず、萬に一つ勝利を得ることが有つても其宣告を執行させる見込なく事實上敗訴と同じ結果に陥る、普通の裁判も亦其通りで、一旦下級の裁判所で勝つた裁判を上級裁判に於て翻

し、上級裁判所に於て勝ちたりと思へば又地方の裁判所が突然勝訴者を捕へて牢獄に打込むと云ふ如き有様で裁判は結局金銭の多寡に依つて勝敗が分れ善惡正不正が分れると云ふ次第であつた、第三は官吏の任用に法規無き事、法律に依つて官吏を採用せざるが故に其任命は常に上官の好む所に偏し情實の弊が極點に達して居つた、第四は土地所有權の不確實、是は地券又は登記法の如きもの、存在せざりしことを意味する、第五は政教混同、是は寺院と官吏との間時に意見を異にし法律の施行を妨ぐることを意味す、第六は言論集會出版の自由無き事、第七は島民に政治教育を與へざりし事である米國政府は先づ此の失政を改めんが爲め初めから一定せ



比律賓の野菜及果物



る方針を立て其政治を初めたのであるが、同じ著者が之を次第したる所を見ると、第一合衆國政府の権力を確立する事、第二合衆國の主権及び國際公法上認められたる権力と背反せざる限り成るべく十分なる自治的政府を設くる事、第三は島民の權利を擁護し各人をして法律の前に平等ならしめ且つ信教の自由を有せしむること、第四は群島政府の施政は比律賓人民の進歩及幸福を目的とする事、第五は官吏任用令を設け情實の弊を去り成るべく多くの土人を官吏に採用する事、第六は良き税法を定むる事、第七裁判制度を改正し公平迅速を旨とせしむる事、第八は道路の改造其他必要の土木を起す事、第九は通商貿易を盛にし農業上に改良を行ふ事、第十は低級及高級の教育制度を定むる事、第十一は比律賓島民の誠實に希望する諸般の改革を實現せしむる事と云ふ如きもので侵略主義として攻撃を受けたマツキャンレイ氏の時代から此方針で有つたから米政府は疑も無く善良なる意思を以て群島の政治に従事したもので有る、其結果は即ち十五年間に追々に現れて來た。

タフト總督の施設　　タフト氏は千九百一年の七月四日に從來の軍政總督に代つて第一番の民政總督になつたものであるが、當時はアギナルド氏も未だ降伏に到らず山中に身を隠して居り各地方共未だ十分に民心鎮靜といふ譯に行かず、西班牙時代から比律賓全島に蔓延し



(類 種 の 芋) ウ ラ バ

て居たツリサネス、ラドロネス、ブラハンなど、稱する土匪山賊暴民の類が、叛亂の混雜に乗じて勢ひを逞うして居つたのである、そこでタフト氏は先づ地方の平定と云ふことを主眼として政治を始めたのであつたが、幸にしてアギ

ナルド氏も間もなく降服し土匪山賊の類も隨て追々に鎮壓せられた、然るに當時は衛生状態の甚だ不完全であつたところに騒亂が久しきに涉つた爲め流行病各地に起り、是が尠らずタフト氏の施政を妨げた、其他今尙農業發達の大妨害を爲しつゝあるリンダーベスト(牛疫)が此時分から盛んに國中に流行り出したので、是又尠からず施政の進行を妨げた、其上に千九百三年には數月に亘る旱魃があつて大に穀物其他の生産を減じ窮民が到る處に發生した、此等の困難相次いで起つたにも拘はらずタフト總督は徐々に確實に胸中の經綸を施して名聲を



博し、千九百三年の十二月陸軍大臣とならんが爲に本國に歸つた、氏の在任中に處分したる事件の重なるものは、彼の教團派寺院の所有地で總計四十二萬五千エーカー其中二十七萬五千エーカーはマニラ附近の最も良い地面を占めて居る、之を沒收すべしとの議論も有つたが比島人ほど僧侶を憎まざる米政府は羅馬法王に遠慮し米金七百二十三萬七千弗を以て比島政府に之を買上げる事になり、これが爲め紐育で八百萬弗の島債を發行した。

總督ライト 第二の總督はライト氏である、千九百四年二月に任に就いた、此人は其就任演説でまづ産業の發達交通運輸の改良殊に鐵道敷設の必要を説き、外國から入込む善意の資本家は成るべく之を歓迎し其事業を賛成するに勉むるが宜しい、門戸開放機會均等主義で無ければ此國の富源は開けぬと云ふことを宣言した人で最も經濟政策に重きを置いた、前總督タフト氏は比律賓は比律賓人をして治めしむべしと云ふ説で、第一に人民の知識を進め政治的能力を養成するの方針を執つたが、一部の亞米利加人は甚だ之を好まなかつた、ライト氏の經濟政策は其等米國人から大歓迎を受け經濟的發達の基礎が据つた、鐵道の如きも當時は唯マニラからリンガエン灣頭のダグーバンまで百數十哩の一線が有つたばかり、ライト氏は種々の法律を設けて鐵道の敷設を獎勵し、南方カビテ、ラグナ、バタンガス、タヤバス、

バナイ、イロイロ、セブ等まで段々鐵道が設けらるやうになつて來た、それから道路も亦軍隊行動の爲め切開いた山道に大改良を施し、從來交通の不可能であつた處に車馬の通ずる道を開いた、而して氏は又官吏任用令を改正し同時に中央及び地方の官制をも改正して中央は現行の通り、地方は分權主義を土臺に事業の起り易い様な仕掛に改めた、尙又氏の功績として見るべきはマニラ市の改良で、市區改正を斷行し衛生法を布き港灣を改築する等の事は皆此時に端緒を開いたのである、併ながら此時尙地方が十分に靜謐に至らずして有力な土匪が諸方に起り政府に抵抗し施政を妨害し、産業政策も總督の思ふが如く急速に進歩しなかつた、而して氏は餘りに群島開發に熱心で有つた爲め獨斷專行の事が多く不平の聲が米人中にも起つて來た其所で前の總督に當時比律賓の監督省なる陸軍の長官タフト氏は比律賓の情況視察し不平を緩和の爲め態々比律賓まで出張し最近の民情と施政の効果を觀察して立去つた、其結果千九百五年十二月ライト氏は駐日本大使に轉じアイド氏が第三の總督になつた。

總督アイド アイド氏は比律賓調査委員の一人で久しく此地に在り比律賓の事情に精通して居つた、氏の在任中の重なる事は貨幣法の制定であつて、紊亂せる從來の貨幣制度に換ゆるに現行の簡明なる貨幣制度を以てした、墨西哥ドルの通用が止んだのは即ち此時代であ





ケソン氏とジョーソン氏

る、次に阿片の専賣法改正で比島では西班牙時代から支那人に限つて阿片を喫することを許し其阿片は政府から拂下げることになつて居つたが、取締が段々寛み阿片喫煙の風が各地に蔓延して居つた、西班牙政府は阿片の收入に重きを置いて居つたから此弊害を止めやうと爲なかつたけれども、米國政府は此惡風を絶すの必要があると云ふので總督は特に委員を任命し支那日本其他の諸國を巡回させた、其結果臺灣に於ける阿片専賣法が一番良いと云ふので、其制度に倣つて専賣法を改良し頗る阿片の害を禁遏することが出来た、其次には度量衡法の改正で現行のメートル法を採用した、其他郵便貯金法の如きもアイド氏の時代に出來た、而して此時代に至つて始めて全國の土匪が或

は捕はれ或は殺され、群島中基督教民の居る所だけは平定に歸した、尙氏の時代に初めて比律賓の議會を開くことになつたので、政黨が起り又選舉の爲めに政治論が盛になり比島獨立論が勃興して來た、恰度其政治運動の眞最中にアイド氏が罷めて此度はスミス陸軍少將が千九百六年の九月總督となつた。

總督スミス　スミス將軍總督になるや否や直に全國の知事をマニラに集めて地方官會議を開いた、此時にセプーの知事オスマニア氏が其地方官會議の議長に選ばれたのが、オスマニア氏の頭角を現す初めであつた、次で比律賓議會が開會されたが、其會員の多數はオスマニア氏の率ゆる所のナシヨナリスタ黨員で、比律賓獨立を呼號するものであつた、此他に氏の施政中の主なる事柄は千九百三年に開始された國勢調査が終了してさうして千九百五年五月其書物が出版された事であつて、此時初めて比律賓の總人口が七百六十三萬五千四百二十六人、其中耶蘇教民が六百九十八萬七千六百八十六人であると云ふことが分つた（最近ハリソン氏の演説には總人口九百五十萬とある）氏は千九百九年五月に總督を罷めて副總督フォーブス氏が之に代つた。

總督フォーブス　フォーブス總督はライト氏と同じく産業發達に銳意する所の人であつ



た、氏は比律賓に來る前米國で實業に従事し敏腕家の名を博した人で財産も豊富且春秋にも富んで居つたから頗る施政に力を入れた、而して前總督時代から比律賓人が政治論に熱中し獨立を喋々するのを見て、猥りに教育を奨励するは却て比律賓人の爲め不得策教育よりも産業の發達を圖るべしと云ふ考を持つて居た、氏は殊に交通機關の改良に熱心で賦役の古法を復活し國民をして勞役を租税の代りに提供せしむる方法を實行した、今日比律賓を旅行すると一基米突に一人若くは二人づゝ赤い着物



蝗の群

を着た道路監視人が居つて草を刈り石を除きなどして居るが、是れ即ちフォーブス氏の案出したものである、さればベンゲット山道の開墾には大に力を入れ未だ總督とならざる以前よりバギオの山上に別荘を有し所謂夏の都實現論者であつた。四月五月の交は總督府員を引率して官府全體を山上に移し涼みながら事務を取ると云ふ壯快な事をやつた、然るに氏が富源の開發に熱心なる餘り曩に僧侶より買上げたバナイ島其他の土地を特別扱ひで砂糖會社に賣渡し非常な大地主が出来たと云ふので攻撃が起り米國議會で之を審査するとなつたが、特別扱は違法舊僧侶の地面と雖も矢張土地法に定むるが如く二千五百エーカー以上は一會社に賣渡すことはならぬと云ふ事になつた、駐米委員ケンソン氏などは最も此大地主を好まず比律賓には大なる資本を以て土地を開發する地主の來らんよりも、小なる農民の増加を圖らねばならぬと云ふことを叫んで居つた、氏の在任中の著しき出來事は彼のペイン關稅の米國議會を通過したる事で、之に因て亞米利加と比律賓は一國內と同じく關稅の障壁が撤去せられた、それで比律賓の砂糖も烟草も從來他に向けられて居つたのが亞米利加へ行くやうになり、尙又是まで佛蘭西に行つて居つたコブラも亞米利加に輸出せらるゝことになつて、大に農業者を益し農業産物が著しく増加し、隨て又一般の外國貿易も大に増進した、此時分比島



を通じ非常の大風が吹いたりタアルの火山が噴火したやうな天災が有つたが農工業の發達に依つて其傷痕は大に間もなく平癒することになつた、然るに此フォーブス氏の在任中に米國に大統領選挙があつてデモクラット政府がレバブリカンに代り現在のウエルソンが大統領となつたので、フォーブス氏も辭職することになり、千九百十三年十月今のハリソン總督が來任することになつた。

總督ハリソン　ハリソン總督はデモクラット黨の第一次總督である、前總督フォーブス氏の在任中米人と比島人との感情が漸く疎隔し上院（即ちコムミッション）下院衝突の爲め豫算が連年否決せられ前年度の豫算を實行するばかりで政治は一寸行詰りの體となつて居た、是はコムミッションの方に米人が多數で有つた爲であつた、デモクラット黨は比律賓獨立承認論であるから、ハリソン氏の來ると同時に大統領はコムミッションの委員の多數を比律賓人と爲し、之に因つて上下兩院の衝突を緩和したので初めて豫算が通過することになつた、氏は其就任演説に於て米國は比律賓を獨立させるのが目的であると云ふことを言明し、官吏等の如きも成るべく多く比律賓人を採用する事にした、それで無くともタフト氏以來長く比律賓政府に從來した多數の官吏は、デモクラット政府になつたので或は自ら退き或は罷



(ラニマ)一其祝の過通案治自

めらるゝものが多いから比律賓人は段々政府の要路を占むるやうになつた、従つて其米國式の大膽なる政治は漸次東洋流の小心なる政治に變つて來た、而して遂に本年に至つて彼のジョーンズ氏の立案したる比律賓法案が通過して比律賓は十月以後全然比律賓人の手を以て經營せらるゝやうになつたから今後は更に亦様子が變るで有らう但し新法案でも總督は制限的不裁可權を有つて居り、會計検査官及大審院長の如きも米國政府より任命するものであるから、合衆國の意思も此機關を通じて幾分か比律賓に行はれるで有らう。

米國領有以來の施政はざつと斯くの如きものであるが、今日比律賓人の生命とする所の産業は如何なる程度にあるかと云ふと、其重要物産たるマニ



ラ麻、砂糖、烟草、米、玉蜀黍、コブラの年産額は略左の如きものである。

マニラ麻	四億封度
砂糖	三億四千萬封度
米	六千萬封度
玉蜀黍	十二億ブツセル
コブラ	二億六千封度
椰子油	二百萬ガロン
椰子油	二千二百二十萬圓
帽子	五百六十萬圓
繼麻	五十萬圓
	六十萬圓

而して外國貿易は千九百十五年の輸出入總計二億六百萬圓で、輸入が九千八百六十萬圓、輸出が一億七百六十萬圓になつて居る、比律賓は工業がまだ發達せず主なる物産は大抵海外に輸出せらるゝものである輸出重要品及其價額は

麻	四千二百六十萬圓
マゲロ	百萬圓
貝殼	六十萬圓
砂糖	二千二百六十萬圓
煙草	七百四十萬圓
木材	四十六萬圓
貝釦	二百五十萬圓
牛	八十三萬圓
書籍及印制物	八十二萬圓
眞鍮製品	五十八萬圓
小麥粉	五十九萬圓
麵麩の原料	百三十萬圓
自働車	百九十萬圓

と云ふやうなものである、輸入の中五十萬圓以上のものを舉ぐれば



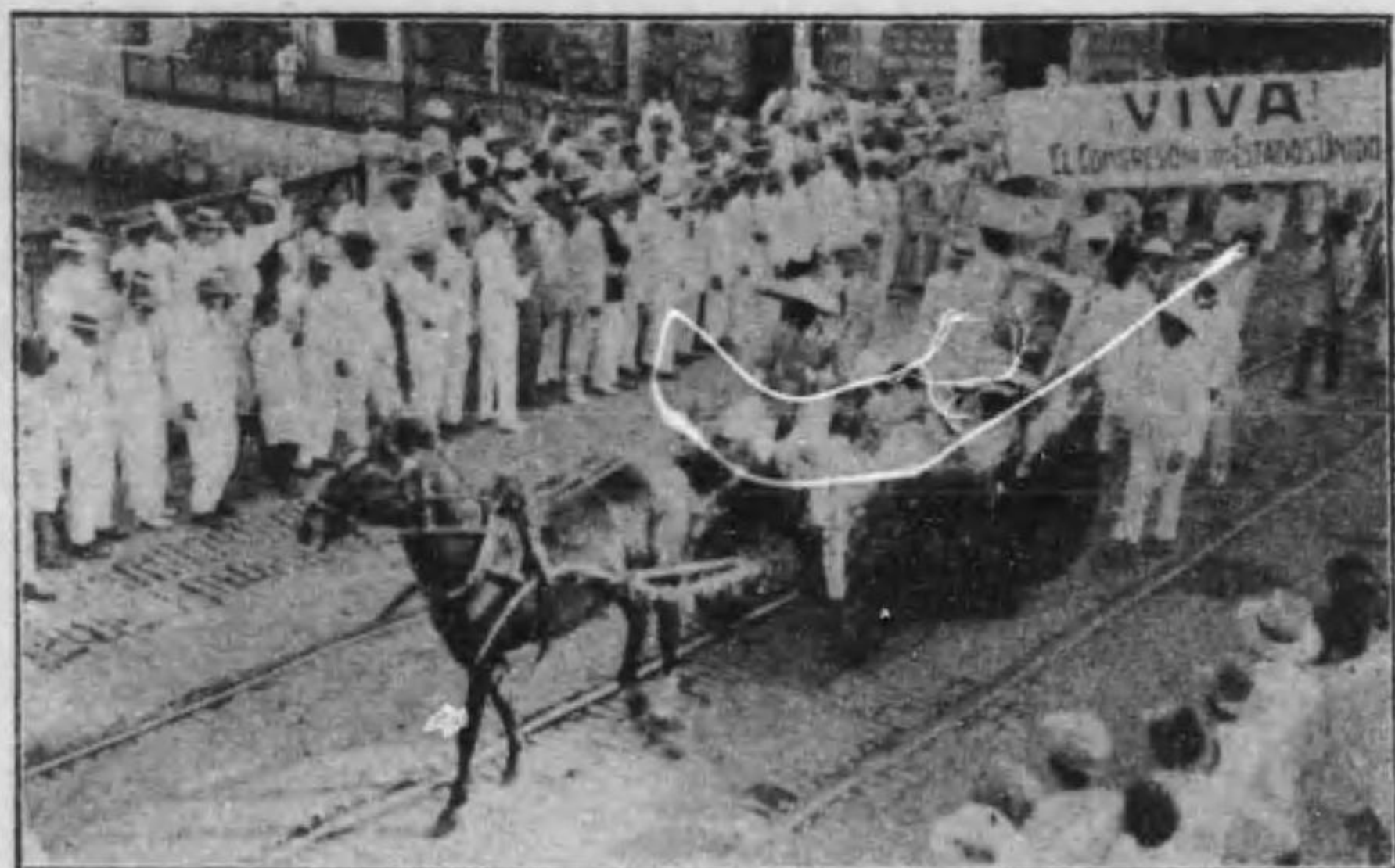
馬車其他の車  
 セメント  
 化學製品藥劑  
 石 炭  
 木綿及木綿製品  
 鶏 卵  
 植物纖維及其製品  
 魚及干魚  
 果 物  
 硝 子  
 護膜製品  
 機械類  
 鐵及鋼鐵製品  
 革及製品

六十三萬圓  
 八十二萬圓  
 百七十萬圓  
 二百九十萬圓  
 二千三百六十萬圓  
 八十三萬圓  
 百二十萬圓  
 八十三萬圓  
 七十一萬圓  
 五十七萬圓  
 五十九萬圓  
 百五十萬圓  
 八百八十萬圓  
 二百五十萬圓

肉 類  
 牛乳製品  
 燈 油  
 油 類  
 ペンキ及塗料  
 紙及製品  
 香水香油  
 米  
 絹及絹製品  
 石 鹼  
 酒 類  
 煙 草  
 植 物  
 木製品

三百四十萬圓  
 二百二十萬圓  
 二百二十萬圓  
 百八十萬圓  
 五十七萬圓  
 百五十萬圓  
 五十三萬圓  
 千三百五十萬圓  
 百八十萬圓  
 九十六萬圓  
 六十三萬圓  
 七十八萬圓  
 百四十萬圓  
 六十七萬圓





自治案通過の祝に(マニラ)

此内最注意すべきは米の千三百五十萬圓で主に西貢から輸入せらるゝ、一年に二度も三度も米の取れる比島人が此巨額の米を外國から買つて食ふのは一寸不思議に思はるゝが比島の米作は蝗蟲水利労働者などの關係で未だ容易に談ず可らずで有る、石鹼なども輸出すべくして輸入し又牛疫の爲牛の輸入を絶えず行はれつゝある近頃臺灣からも水牛を輸入したと云ふとである。

比律賓政府の財政は一昨年<sup>の</sup>支出が二千四百萬圓内二千二百五十五萬圓を租税が負擔して居る人口を假りに八百萬人とすれば一人當り二圓八十二錢輸出の一人當り十三圓だけを比較すれば日本人より收支の割は好いが二圓當りでは其富力の低いのが分かる雇役法などの行はる筈で有る其所へ以て來て官吏の俸給が減法高

く二千二百萬圓の三分の二、一千五百九十萬圓ばかりは役人の懐に這入つて仕舞ひ租税が島情の改善に用ひらるゝ額僅に七百萬圓とは不釣合の甚しきもので有る其所で比律賓人の自治論も決して感情から來ると云はれなくなる。



## 今後は如何

政治上に於ける比律賓の將來は余が此旅行中議論の餘地のない程煎じ詰つて來た、即ち本年の八月末米國兩院を通過して法律となつた比律賓案異名ジョーンス・ビルに依れば、比律賓群島は米國の領土でありながら殆ど其人民は十分の自治を與へられ、米國政府の任命する總督は唯不裁可權を有するのみである、而も其不裁可權は限定的であつて二回以上同一の案が比律賓議會を通過すれば總督はそれを米國大統領に進達して裁定を乞ふことゝなつて居る、勿論米國の議會は絶對の不裁可權を有するけれども數千哩を隔てたる米國の議會が比律賓の内情に通じて居らう筈はないから、大抵の案は比律賓議會の議決通り法律として施行せらるゝものと思はなければならぬ、而して米國政府は總督副總督の他會計検査官、大審院長等十一二名の官吏を任命し且つ國防の衝に當るばかりであつて、事實上比律賓は米國政府保護の下に獨立したと同様である其新たなる上院も此十月四日既に選舉を了り十六日に開院式を舉行した、此自治案に就て最も盡力したる駐在米國比律賓委員ケソン氏は總督の指名に依つて上院議員となり直に議長に推され、氏の同僚アインショイ氏も同じく上院議員に選ばれ

た、而してケソン氏の功績を永く記念する爲に舊城門の一をケソン門と名けるなど比律賓人の喜び以て知るべしである、故に余は此點に於ては何等言ふべき言葉を有せぬ、比律賓の將來は全く比律賓人自身の奮發如何に據つて其運命が極まるのである。

然らば比律賓人は今後如何なる點に力を注ぐべきかと云ふに、何人の見る所を以てしても大に農工商の三業を盛んにするより外に策はないのである、二宮尊徳の言葉に上國は温泉の如く下國は風呂の如しとある、其意味は上國の富は用ひても用ひても盡きず、下國の富は殖しても殖しても減る、猶ほ温泉の汲めども盡きず、風呂の沸しても沸かしても冷めるが如きものであると云ふのである、普く世界



吉バキの害



各國を通覽するに、天然の上國と天然の下國があり又人工の上國と人工の下國がある、英國の如きは天然よりも寧ろ人工の上國であるが、比律賓の如きは天然の上國を人工の下國にして居るのである、前に記す如く比律賓人の貿易を一人當に平均すると日本人よりも優るけれども其國內に於ける富有の蓄積實業の活躍が無いから、島民一般に貧乏に國土は尙太古其儘の觀を呈して居るところが多い、然かも其氣候日本の如く不順ならず、周歲我が夏初秋初の如き溫度を有し雨量も亦適度且國中土地の高低頗る多般に分れたるを以て百船の農業一として之を比律賓に行ひ得べからざるものは無い、然るに比律賓の現状は此天然の富源を啓かずして、人工的に貧乏を守るが如き有様である惜しむ可きことである。

歐米人は比律賓人を以て天然に遊惰なる人間と思ふやうであるが、一は氣候に原因し、一は過去の惡政に原因するもので決して人間の氣質では無い、氣候の影響は白人も亦免る能はざるもので彼のリサールの「比律賓人怠惰論」に論ずる通り白人の熱帯に居る者は熱帯人以上に勞働を好まないのが事實である、而して惡政の爲に人民が勞働を厭ふ證據は近く之を過去の朝鮮に求むべく亦日本にも求むべしである、近時の日本は全國民擧つて勤勉となつたが、幕府時代に於ける天領若くは諸藩の領地中には箸にも棒にも掛らぬやうな惰民が澤山に

居つたのである、「二宮尊徳報徳記」を讀めば直ぐ分る、近頃瀧本精一君の編輯した「日本經濟叢書」中にも其例は澤山に有る、余が比律賓で目撃し



ミダナオの學校教員

た所では比律賓人は必しも日本人よりも怠惰の民ではな  
く過去三百年に亘る惡政が彼等をして自暴自棄に陥らし  
めたのであると診斷するのである、故に比律賓の政府は  
一般人民をして勞働の結果は勞働者自身之を收得し得る  
ものなることを領會させ、人間に通有なる利慾心及向上心  
を盛ならしめ天然の上國を眞の上國ならしむることを工  
風せねばならぬ、米國領有以來茲に十五年今比島の政界  
に翱翔しつゝある人士は半ば西班牙時代の教育を受け他  
の半も亦頗る其影響を受けて成長したる人々であらう、  
西班牙時代の教育は法學、哲學等専ら無形の學問を主と  
したものであつて、比律賓人の頭腦は我日本の維新前と  
同じく、無用の知識ばかり多量に蓄積して居るのであ



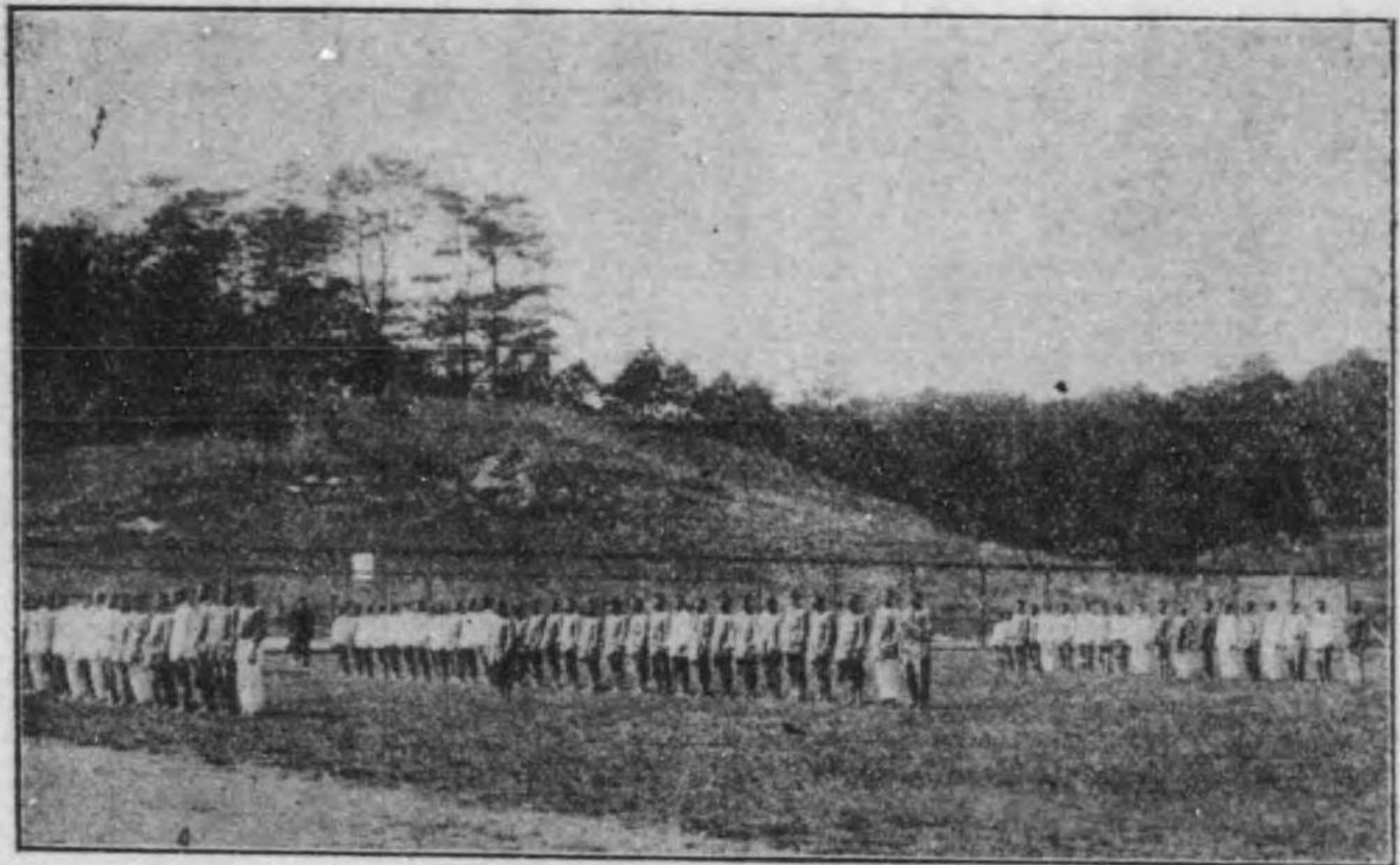
る、隨て獨立問題國權論と云ふが如き空論に於ては彼等は敢て米國人士にも一步を譲らざるものであるが近世の科學を應用し天與の富源を啓くの一段となれば彼等は其輕蔑する米國のカウボーイにも遠く及ばざるものである、而して其一事が又米人の大に比律賓人を輕蔑する所以であるが是れ亦大間違ひで卵を見て時夜を求むるの類で有る、鐵砲無しには彈丸は飛ばぬ、而して過去三百年間の事情を計算に入れば、米人も比律賓人に向つて却て大に同情せざるを得ないことになる筈で有る、然し比律賓の有識者が専ら政治論に熱中し雪白の洋服を着て自働車に乗りマニラ市中を驅廻つたり、議會で喋言することを名譽と思ふやうな事では比律賓の獨立は將來米國が承認しても之を永遠に維持する基礎を缺くものと言はねばならぬ、新西蘭のマオリ人は英人に其國を奪れたもので有るが其怨言に「彼等は吾々を煽動て天を仰がしめ其間に地上にある吾々の財産を奪つた」と斯う云ふ、成程英國の宣教師が宣敎して居る間にマオリ人の國は亡びたので有るが、それは彼等が眞實の智識を得ることに努力しなかつた結果である、比律賓人を以てマオリに比するは甚だ失敬だが、比律賓ばかりでは無い、日本人も同じ事火花を見て辨當を取られるやうな失敗は自己の不明自己の不用心で有る、西人の東人に優り西方の東方を壓するのは何故であるか好く考へて行動しなければ世界の笑は

れ者となる、幸に今米國政府は寛大と善意とを以て比島に對して居る、自治既に至り此次は獨立である、獨立の用意は産業の發達の外に無いので有る。

比律賓總督ハリソン氏が新議會に下したる敎書の抄録を見れば土地法を改正し小地主を多くして普く全國の土地を開墾せんことを希望して居る、小地主論はケンソンの意見としても之を讀んだ、比律賓政客の多數は皆同一の意見を懷いて居るのであらう、是れ頗る適當なる議論である、大地主の土地開墾に對する怠慢は日本に於ても北海道に於て之を経験した、彼の濠洲新西蘭邊に於ても今現に其弊に苦みつゝあるものであつて、比律賓の土地法は宜しく言を各州各島の狀況に依つて定むべきものである、然し角を矯めて牛を殺すやうな事は禁物で有る、柱に膠したやうな事では資本家を萎縮させる、伸縮自在で無くてはならぬ、總督は又牛疫のことを心配して居らるゝ是も尤である、飼牛の輸入は農業上に於て僅に現狀を維持するに止まり、而かも是が爲には多大の失費を要するのであるから、牛疫はコレラの如き人疫と共に大に其豫防及撲滅に官民の力を用ひなければならぬ。

それから農業の方法も比律賓現在の仕方は餘程不完全である、宜しく日本のやジャワの農業法を參考とし大に改良を加ふべきものである、比律賓大學の農科は頗る立派なるものであ





バギオの農業學生

るが、大學よりも全國到處に低度の農業練習所を設けて大に農民の能率を増し知識を増すの工風が肝要である、例へば現今輸出品の王たるコブラの如きも比律賓は世界のコブラ國中最も多額を産出するのであるが、其価格は一番低い、其原因は唯乾燥の仕方の不行届に在る椰子園所有者の智識が開けて来れば比律賓のコブラは忽ち其價を増すので有る、日本でも其例が有る、余の故郷豊後の米は以前鼠臭ありと云ふて下等米の稱を有して居つたが、一二の識者が其原因乾燥の不十分と俵装の粗悪に在ることを知り、農民の蒙を啓くことに盡力した結果下等變じて上等米となつた、總督ハリソン氏も農學校増設の急を説いて居るが、大學校よりも農學校の方が今の比律賓には急要であ

る、工業は現今僅なる手工例へば帽子製造、レース製造、刺繍衣服紡織等の外殆ど見るべき物がない、余の觀る所比律賓人は男女共に其性質伶俐にして手先が器用である、適當の方法で獎勵したら手工の如きは受合つて直に勃興する、男女若干の徒弟を選んで年々我日本に送り、職業學校、徒弟學校の如き所で教育を受けさせたらば宜からうと思ふ、而して此等の器物を裝飾する繪畫の如きも大學總長ヱイラモア氏の言はるゝ通り比律賓特有の意匠を作り特色を發揮するが肝腎である、故に繪畫の如きも又日本式の毛筆畫をも稽古させ東西折衷の圖案を比律賓に興す必要があらう、機械工業に至つては比島は其原料に乏しく且又米國品の競争に堪へないであらうから、容易に興起する見込はないが、併し例へば椰子油の精製、石鹼製造、麻の

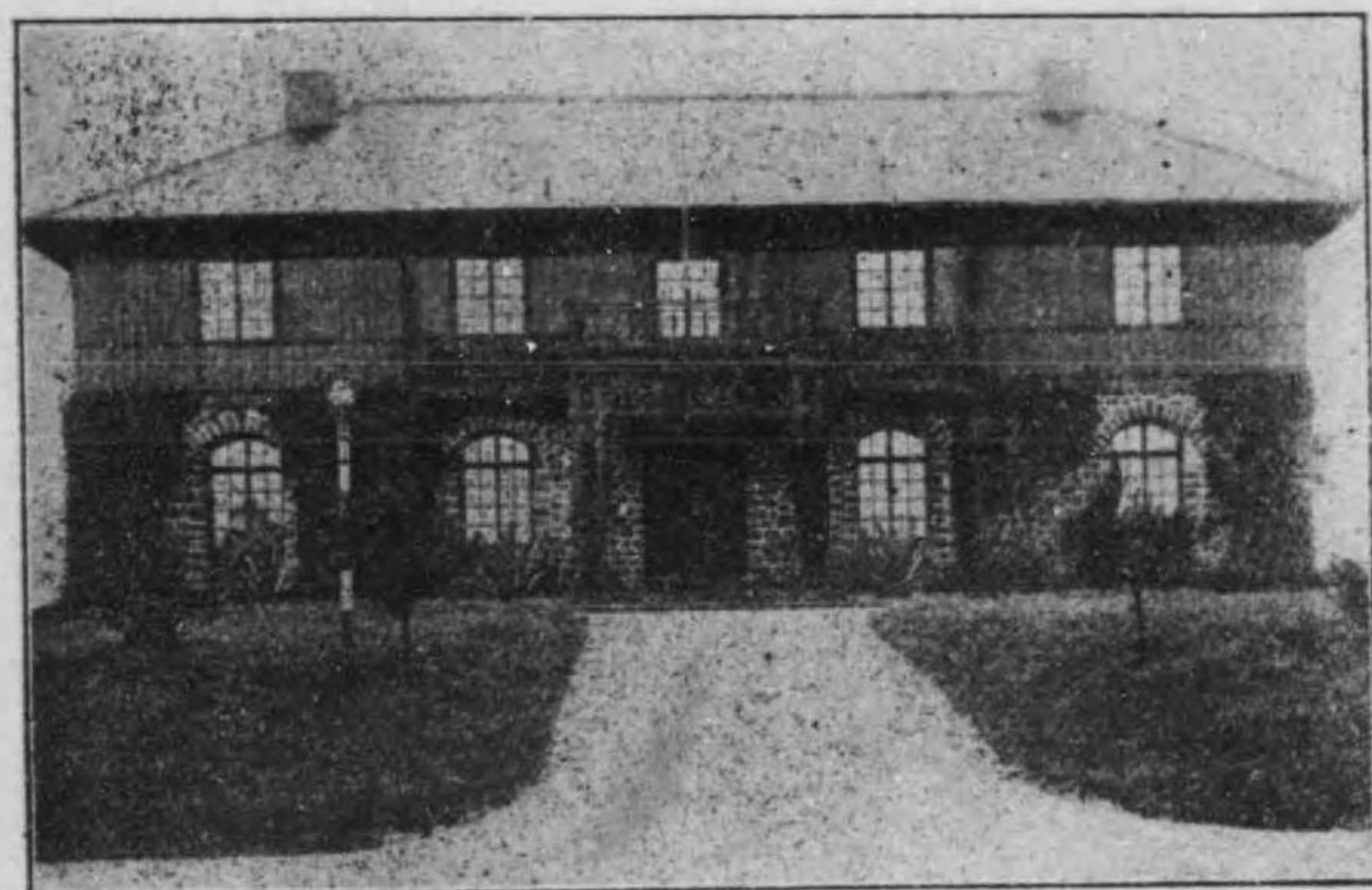


イコロスの婦人



精製及紡織の如きは將來比律賓に於て大に起るべき事業である、現に貝釦製造、煙草製造などの如き工業もマニラに其の工場が出来て居るのであるから、工業に於ても決して比律賓は失望するに及ばないのである。唯工業の原動力たる石炭だけ群島地層の若き爲めに良いものが得られないけれども、日本支那の石炭が有るから燃料の事も深く恐るゝに足らぬ、現にピサヤ製油會社の如きは日本の石炭を用ひ、セブに於て一噸一圓三十錢にも價する人工の水を使用して尙其工業を行ひつゝあるのである、次に商業であるが、現在の状況は内外共に商業が殆ど全く外人の手中に歸して居る、其内國商業は全然支那人の掌中に握られ利益は悉く支那人の懐中に入る、外國貿易も歐米人若くは支那人日本人が其大部を占めて居るのである、其原因は過去の日本と同じく比律賓人が商業を専ら農業を尙んだ結果であるが、マゼラン時代に於てすらセブの商人は頗る利勘に達して居つたと云ふことが古い記録に見えるから、今後比律賓人が新知識と新方法を以て商業に従事したならば商權を恢復する事も決して困難ではなからうと思ふ、日本の如きも近い頃まで外國貿易は殆ど七八分通り外國商人の手に歸して居つたのである、近來日本人の奮發に依つて其大部分日本人の手に取戻した、然し此方面に於ては比律賓人は全然新天地に働くことであるから中々一通りや二通りの奮發では

我日本の現状までも到達することは出来難いであらう比島在住日本商人の話に現在比律賓の



巴 吉 山 中 總 督 官 邸

商人は取引の仕方散漫無秩序且つ不信用であつて、支那人の確なるに如かないから自然支那人と取引することになるとの事、比島は支那人が比律賓の商賣を壟斷するのを憎むが、是亦自己不勉強の罪で支那人の悪いのではない、比律賓人大に反省せざる可らずである。

以上概言する所は比律賓の急務であるが、現在の比律賓人は資力が薄く信用も少いから急速に其富源を開かんと思へば大に外國の資本を入れなければならぬ、而して單り資本のみならず之を相俟つて眠れる富源を覺醒させる努力も甚だ之を得難いのである、それは如何んせん數百年來交通運輸の途を開かず、各地方の人民は皆其の一小地方を天地として蝸



牛的生活を爲し來つた習慣が容易に脱けず、多分の賃銀を得る途があつても容易に他の地方へ出で、働かうとはしないからである、例へばセブ島の地方の如きは一日二十錢で、ミンダナオに行けば一日五十錢取れるけれどもセブ人は容易にミンダナオに行かぬ、一度行つても又直に故郷に立歸るさうだ、呂宋のイロコス人は他の地方に出で、労働する風を有して居るが是も中部バンバンガ邊まで來て働けば餘程遠方に行つたやうな氣持で居る、此狀況も亦我日本の三四十年前と大差がない、今後三四十年を経れば比律賓人も利を求めて他地方に出稼さするであらうが、比律賓の富源開發はさう氣永に待つて居ることは出來ぬ、そこで外國の資本を輸入すると共に又暫く外國の労働者をも輸入し其力を借りて國土を開發する必要があると思ふ、南北米の先例追ふべしで有る、我日本の如きも千餘年前の歴史を見れば各地方到る處人間が少く國土開けず教化普からずして大に困難して居る、そこで當時の朝廷は支那人及朝鮮人の移住者を歓迎し、之に土地を與へ、諸般の獎勵を行つて日本を開發したのである、而して其子孫は今日日本人と混交して何れが朝鮮人なりや少しも其痕跡を止めないやうになつて居るのである、比律賓人は吾々と同一の馬來人若くはインドネシアン人種と稱するものに屬するものであつて血縁も極めて近いのであるから、日本の農業者を入れて其力に據

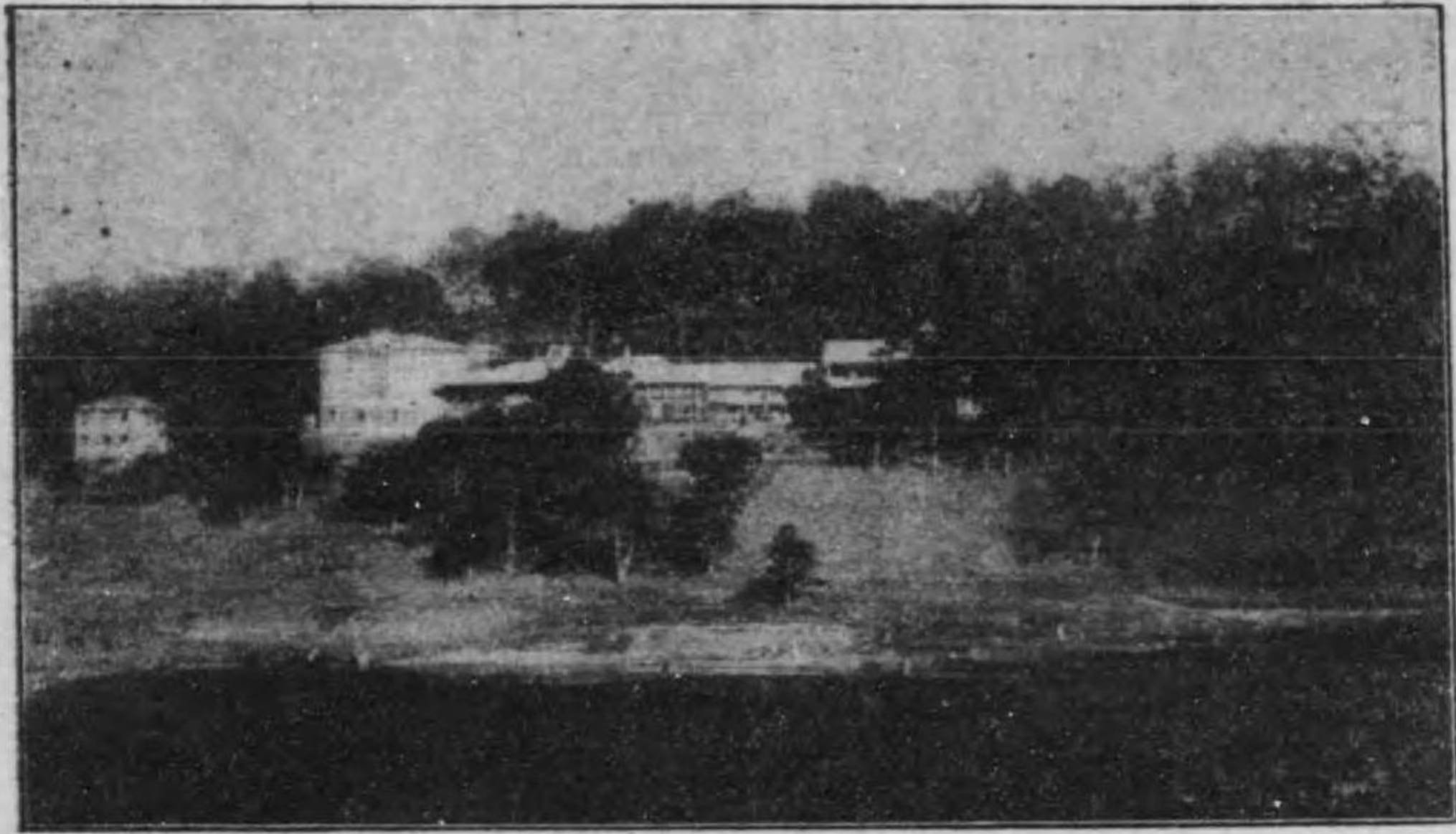
つて國土開發の功を速に成らしむると云ふことは頗る得策であらうと思ふ、但し此農業若くは工業に外國の資本を入れ又外國の勞力を使用すると云ふことに就ては百年の利害を打算して大に考慮を費さねばならぬ、而して此等の事業上に比律賓人と外國人との共同戮力すると云ふことは何よりも最も必要な事である、余が巡視したる各地方に於て米國人の農業を経営して居る人々は多く資本と勞力の缺乏に苦んで居る、就中勞力に於て著しい缺乏を感じて居る事實である、此等は本島人と協力が十分行はれない爲であらうと思はれるので、太田會社の如きは此點に於て最初より頗る意を致して居る、將來に於て太田氏などは比律賓人を其農園に使用する考であると云ふことを余に語つた。

次に比律賓人の力を注ぐ可き將來の獨立に對する準備として全國諸民族を結合し地方的感に情を消滅させる事である、ナショナルイゼーションの事は比律賓どころか統治者なる米國に於ても最急務最大問題として論議せられつゝあるので有るが、比律賓は米國の如き現に各別の獨立を有する諸人種の集合ならざるが故に、其事比較的容易なりと言はねばならぬ、それから又困つた事は狭き群島中に幾多の地方語が有つて同じ呂宋の一島内でさへ南北の人民互に其言ふ所を解せざることであつて、是が亦少なからず國民的活動の妨礙となる、米人は最



初から英語とするの方針で教育を行つて居るが、今日の勢は米人の数が次第に減少するの一方であるから困る、比島人如何に言語習得の能力ありとするも米人に代つて間違なく英語を教授することは不可能である、而して強制的に比律賓の土語を全廢せざる限りは土人として土語を使用するの便利は到底他國語たる英語の比で無いから、兒童は英語に慣る機會が無いと見ねばならぬ、其所で余の希望は比律賓人が思ひ初つて最も多數人の使用するピサヤン、タガログ兩語の中一つを國語と定め、小校校で普通學を教へ、若くは低級の實業學校で職業を教ゆるには此國語を用ひ、術語だけ英語を用ひ、中學以上次第に英語の教授時間を多くし、大學に至つて全然英語を以て諸學を教ゆると云ふとに仕たのいで有る、斯くする方が教育の効が多いことは決して疑ひ無い、米人が初めから兒童に英語を教ゆるのはコンクリート建の校舍と同じく何程好い事でも有つても比律賓の民度に適せぬ、現在の比律賓人は精神上も物質上にも本造家屋を必要とするので有る。

地方的感情の旺盛なることはセプーの記事中にも述べて置いたが、米國人が獨立自治について心配するのは此點で有る、米國の威壓が無くなつて比律賓の政事家が自由に權力の爭奪を行ふやうになれば、タガログとピサヤンは必ず大喧嘩を始めるであらう、タカログとピサヤ



ル テ ホ ン イ バ の オ ギ バ

ンで無くても、バンバングとタガログでも必ず激烈なる競争をするに相違無いと云ふので有るが、是は然程憂ふるに足らぬかと考へる、日本でも地方的感情は今尙頗る強い決してタカログ、ピサヤンに劣ら無い例が澤山有る、然し國を忘れて喧嘩するやうな事は決して無い、且つ地方根性は米國のやうな處にも存在する、歐洲戦争は歐洲人の地方的根性を現はしたもので、有る、東洋人の專賣免許品でも何でも無い、比島人の先導者ケソン、オスメニヤ、アギナルド等の人々はまさかそんな事で掴み合ふやうな事も爲ないで有らう、然し注意すべきは全國民の政治的狂熱病で、現在の比律賓は田吾作全兵衛の輩新に政權を得て政治家の粗製濫造品が市場に夥しく飛出して居る、其狀況は八



百年間武士が獨占して居た政權を一般人民に公開した日本の狀況に好く似て居る、唯日本は少し其熱が冷めかゝつて來たところだが比律賓は今四十度以上で有る、實業を盛にして其熱を吸収し無いと恐るべき結果を生ずる、これについても農工商業の獎勵は此島に於ける目下の急務で有ると見ねばならぬ。

### 獨立問題

斯くの如く比律賓の將來は比律賓人の覺悟と骨折如何に因つて一大富國となるべき運命を有して居るものと考へる、唯今後尙比律賓人と米人との間に殘存して進歩の妨げとならうかと思ふことは彼の獨立問題である、米國側より見れば獨立問題の如きは何も重きを置く程のことはない、比律賓人は米人を保護者と思つて、一生懸命に働きさへすれば宜いのである、然し比律賓人の側から見れば獨立問題は尙何處かに引掛つて居る、故如何となれば千八百九十六年アギナルド氏の西班牙に對して叛旗を翻せし以來比律賓人の頭には外人を驅逐し政權を回復し自治自立の國とならうと云ふ考が沸騰して居たのである、多數國民は知らず少數先覺者の希望は皆同一で有つたに違ない、未開と文明とを問はず何れの地方でも政治上の事は

事實上少數の思想で左右せらるゝのであるから、比律賓でも其少數の先覺者の考が即ち國民の輿論となるので有る、其所で一生懸命に反西班牙運動を開始したのであつた處が、他の國家が飛出して西班牙を驅逐すると同時に代つて比律賓群島の主人になつて仕舞つた、是は比島人の思ひ掛けない事であつたのみならず、米國人も思ひ掛けなかつた出來事である、米西戦争の當時海軍司令官デュエー將軍は其海軍力を以て西班牙の海上防備を破壊したが陸上の西班牙兵は何様することも出來なかつた、其時に新嘉坡駐在米國領事ブラット氏の才覺でデュエー將軍は叛將アギナルドを利用し之に兵器彈藥を與へ陸上に叛亂を起さしめて西班牙軍をマニラ城に壓迫し米國陸軍の到着するまで西班牙軍隊をして一步も動く事能はざらしめた、實際米人



ネグリト人の弓術



の行動が比律賓をして米軍は自分等の獨立を援助せんが爲に比律賓に來つたものであると云ふ誤解を抱かしたものであつて、其誤解は今日に至つても決して拭去ることが出来ないのである、アギナルド氏及其一派の言ふ所に依ればブラット領事デユエー將軍等は彼等に向つて獨立を保證したとのとである、米國人にして長く比律賓の官吏たりしブラウント氏はアギナルドの言ふ所を以て眞實なりと論じて居る、之に對するウースター氏の駁論が亦頗る詳細を極めて居る、然し今日から此兩説に向つて孰れが眞孰れが偽、孰れが欺き孰れが欺かれたと判斷するは到底爲し得べき事ではない、且つ今日となつては最早獨立を保證の如何は問題にならぬ、何故と申せば米國議會が可決した比律賓案の冒頭の下の如く明記して有る「米國人民は其西班牙との戦に當り決して之を領土擴張の目的に供するの計畫を有せざりしものにして、合衆國民は從來常に堅實なる政府の比律賓に建設せらるゝを期して速に比律賓に對する主權を撤去し、比律賓人民の獨立を承認せんことを以て目的とせり」と之に據ればデユエー將軍ブラット領事が保證せしとせざりしとに拘はらず合衆國民は最初よりして比律賓の獨立を援助せんが爲に盡力しつゝあつたものであると言ふことが明かである、唯マツキャンレー氏の政府が西班牙との條約を締結するに當り、無念にも比島人を除外して單に比律賓群島の受

授を兩國の間に決了した爲に、アギナルド其他の比律賓人をして米國の意志は征服に在り領土擴張に在りと思はしめて不幸なる米比人間の衝突を來したと云ふことになる、而して其當時の米國人は戰捷の餘威に誇り比律賓人を輕蔑し汝等未開の東洋褐色人獨立問題を云々するが如きは生意氣なりと云ふやうな言語舉動を爲したのは比律賓人の感情を甚しく損傷したので有つて残念千萬のとである、併し其事たる十餘年の過去に屬するのみならず、人間固より不完全なる動物にして其行動は常に誤謬を以て満さるゝものと考へれば、米國の荒武者の威張り方も深く咎むるを要せず、比島人の怒りも亦道理至極で雙方共に五分々々の喧嘩で有る、今日は宜しく此行掛りをサラリと太平洋の水に流し米國議會の決議を信じ、比律賓人の手で立派な政治を行ひ米國人を感服させるのが肝要であるが比島人の頭はまだ其所まで冷却して居らぬやうに見受ける、尤も餘り冷却しては政治家が困るかも知れぬ。

クラーク氏の修正せるジョース案には年數を限つて獨立を許すことになつて居た、今度のは自治ばかり、是が比律賓人に取つては不満足で有る、其所で人間の習ひ比律賓人は米人の意中を邪推して心配する、米人は又此位優しくしても満足せぬとは思知らずだと憤る、誠に面白くない、余は三度亞米利加に遊び其一回は五年ばかり紐育邊に居つていろゝの米人に交



り頗る其性質を解した積りである、余は米人を敬し又愛するもので有る、比律賓人には今度初めて交つたが支那人朝鮮人よりも日本人に近い性質を有し、多年相忘れて居た親族に逢ふやうな心持がした、其所で余は兩方共善友として之を遇したい、其間の感情の疎隔は余に取つて甚だ苦痛である、余の旅は僅に三ヶ月であるが其間に接したる米人は大抵皆比律賓人の缺點を擧げて之を罵る、それから比律賓人も亦米人を好まぬ、是にはいろ／＼原因も有らうが、治者と被治者優者と劣者との間には得て此の如き感情の疎隔が生ずるので有る、ふり返つて見れば日本でも民間の議論は常に政府の攻撃で政府に如何様なる善事があつても之を無視し攻撃を加ふるのである、而して政府の官吏は人民を以て知識の幼稚なる者として之を指導せんと試み、知識階級の人は又其間に立つて日本人同志とも思へぬ程國人の短所を暴き政府の不行届を罵る、實に奇妙なる有様で有る、此奇怪なる日本人の心理状態は維新以來政權が常に當時の戦勝者たる薩長人の手にのみ存して、他の政客は何時でも其制を仰ぐが如き有様で有るからで有る、一般人民は初め幕府の腐敗政治が罷んで明治の新政となつた時大に之を喜び不平も何も無かつた、所に追々失意者や職業的政治家が出現して政治攻撃を始め一般人民も薩長人が餘り長く政權を執るので次第に不平連につり込まれ何でも政府には反對する

ものと心得るやうになつて來た、比律賓でも其通り西班牙政府の無くなつた時は、島民一同唯喜ぶ外なかつたらうが、お代りの米國政府が又何時までも居据る事になつたから、何でも悪い事は米國人に押つけるわけで有らうと思はれる。

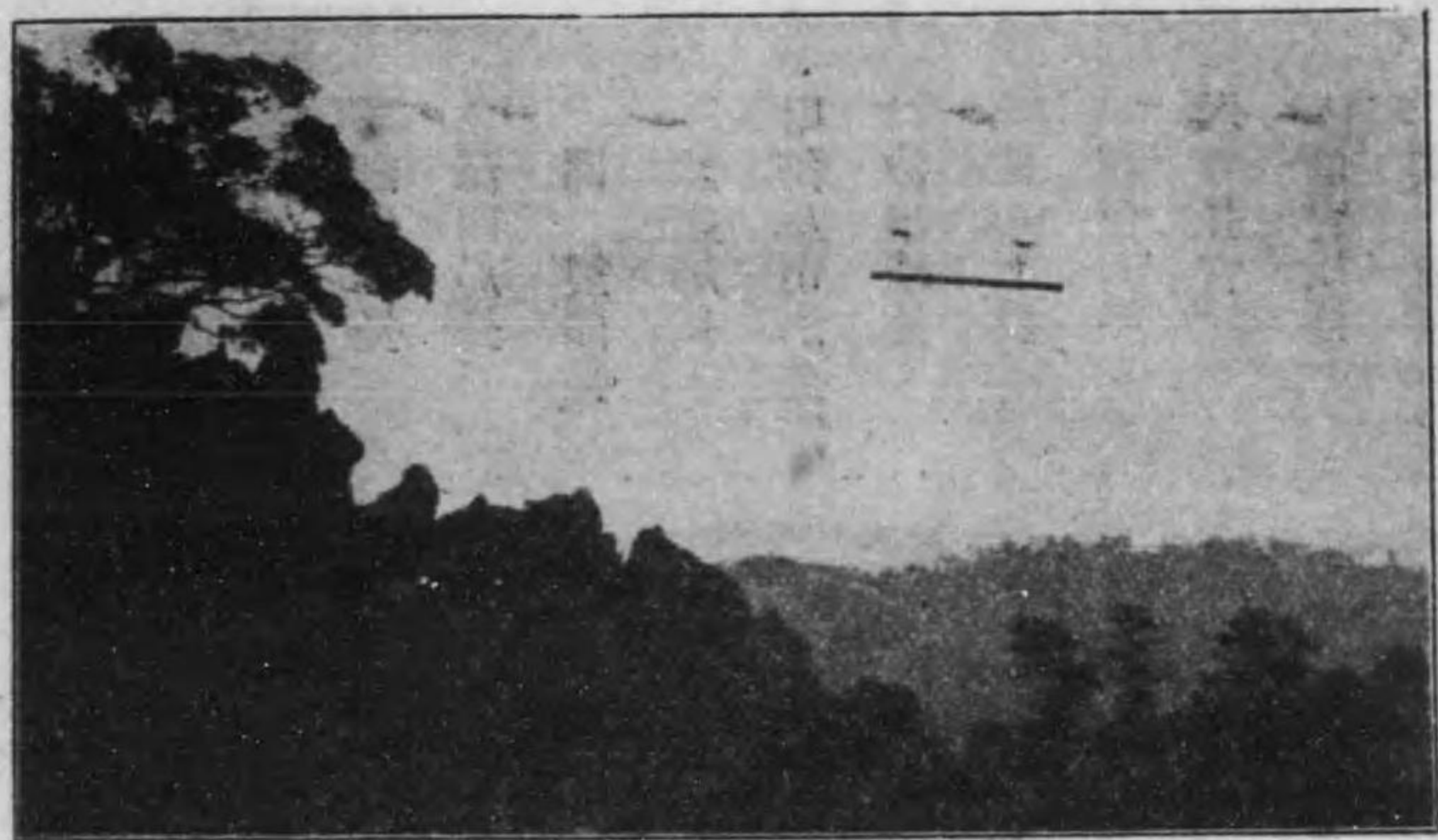


君 ライヴアの - プセ

米國人は優勝者である比律賓人は被征服者であると云ふ僻みが比島人をして米人を嫌はしめ、米人は又其嫌はるゝのが惟しからぬと云つて自分の手柄を吹聴し比島人の忘恩を罵る次



第で日本の状況と大同小異で有る、其所へ政治家と云ふ悪戯者が出て薪に油を添へるやうな事をやる比島の政治家も、米國や日本の政治家も同じ種類の人間と見れば米比の感情疎隔は刃を迎へて領會される、然し米國人も決して罪なしとは言へぬ、好く自から省みれば必ず比島人から攻撃を受けても已むを得ない事が有るに相違無い、大體から言つても屬領統治に慣れぬ米人が國狀の異なる東洋に來て行なり施設した事柄には緩急順序を顛倒した事も有らうし、富裕な米國の寸法を貧弱な比島に宛箴め、小供に大人の衣着せ様うな事も澤山有るに相違無い、其結果は政府の浪費贅澤と云ふ事になつて政府自から苦しむので有る、比島の衆議院が上院と衝突したのは即ち此點で衆議院の方に道理が有る、其所で千九百十四年の委員會報告を見ても節儉の事が頻りに書いて有る、ソレに由ると兩院の衝突豫算不成立の結果千九百十年には剩餘金が一千九百萬圓有つたが、十三年の收支は七百萬圓の不足驚いて非常の儉約をした爲、千九百十四年末は二百八十四萬圓の不足で濟んだとあるが、十五年は果して如何で有つたか、千九百萬圓も此勢では直に無くなる、總督ハリソン氏は其新議會に對する教書の中に官吏俸給減額の事を一言して居るが俸給が租税の大半を食ふやうな事は米人の失策、宜しく速かに大削減を加へざる可らず、比律賓職員録を一見すると大官の俸給は左の如



搬運材木の道山オギバ

くで有る。

總督	年俸三萬六千圓
副總督	二萬七千九百圓
舊上院議員	各 一萬三千五百圓
衆議院議長	一萬六千圓
同 秘書官	四千八百圓
行政部書記官	一萬三千五百圓
會計検査官長	一萬二千圓
内務長官	一萬八千九百圓
衛生局長	一萬八百圓
土地局長	一萬八百圓
同 次長	七千二百二十五圓
學術局長	一萬八百圓
山林局長	七千六百圓



大學總長  
 農科學長  
 醫科學長  
 美術學校長  
 心藝科學長  
 工科學長  
 法科學長  
 農務局長  
 次長  
 用度局長  
 典獄  
 副典獄  
 印刷局長  
 同次長

一萬二千六百圓  
 九千圓  
 一萬圓  
 三千圓  
 七千二百圓  
 八千圓  
 九千圓  
 一萬圓  
 六千圓  
 一萬圓  
 七千五百圓  
 六千圓  
 九千圓  
 六千圓

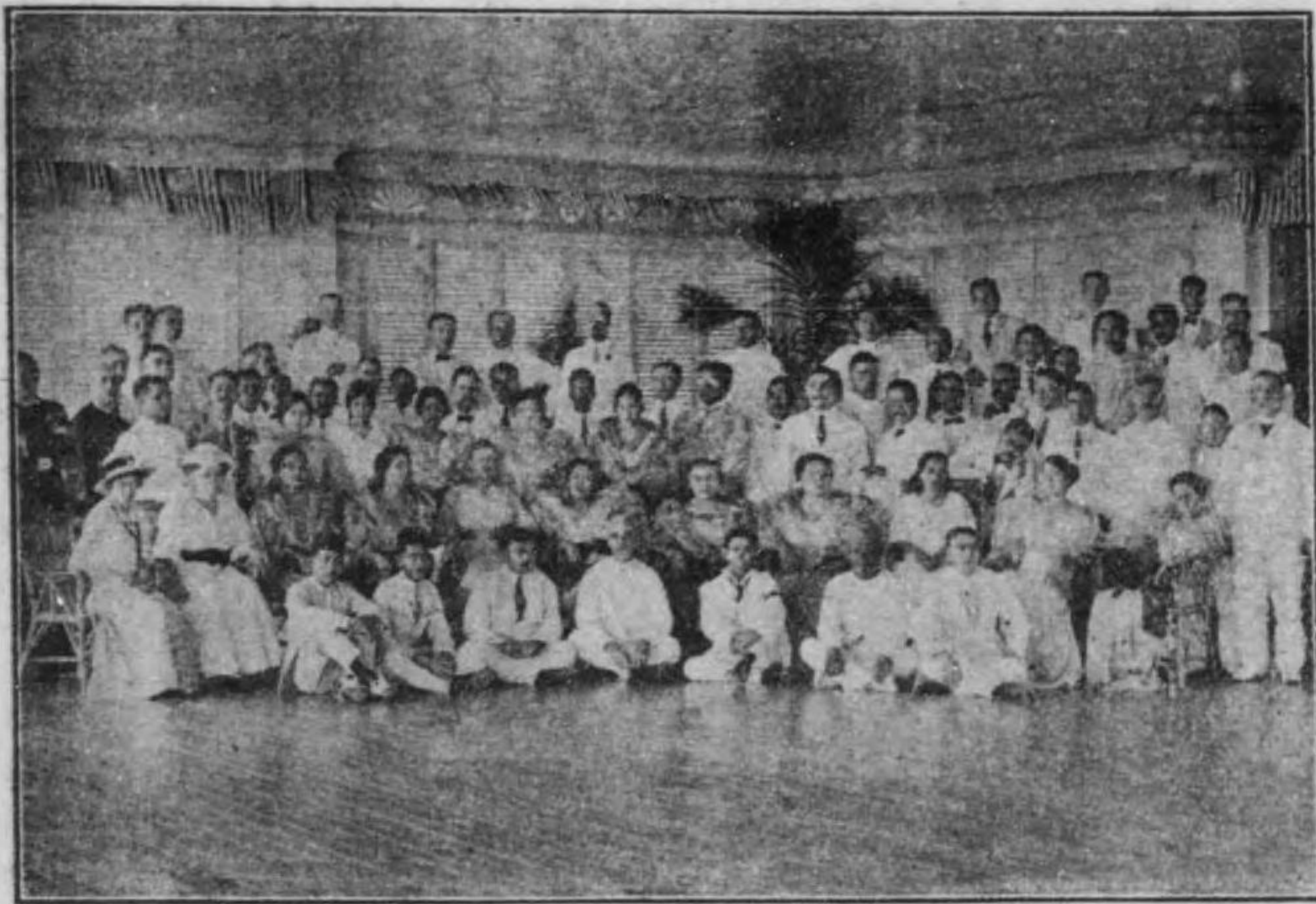
氣象臺長  
 憲兵隊長心得  
 土木局長  
 郵便局長  
 海圖局長  
 同製圖長  
 水道局長  
 財務及司法長官  
 檢事總長  
 稅關長  
 租稅局長  
 教育長官  
 教育局長  
 同次長

五千圓  
 一萬二千圓  
 一萬三千圓  
 一萬八百圓  
 三千六百圓  
 四千圓  
 六千六百五十圓  
 一萬八千九百圓  
 一萬一千圓  
 一萬八百圓  
 一萬八百圓  
 一萬八千九百圓  
 一萬八百圓  
 七千圓



圖書館長 六千圓  
 大審院長 二萬圓  
 裁判官 各 二萬圓  
 土地登記局長 五千五百圓

右の如き次第である、現在米國人千五百人比律賓人八千二百人と云ふのが官吏の總數であるさうだが、比律賓人の八千二百人は皆米國人の位置を受繼いだ者であるから此大官連に比例する高給を受けて居る、隨て彼等の生活は一般人民と非常に隔離して贅澤極まるものである、而して其錢は皆悉く比律賓人の膏血である、元來米人が比律賓に來て以來比律賓の物價は俄かに飛上つた、米人は之を以て比律賓の繁榮の増加した事に歸して居つて比律賓の貿易が米國領有以來長足の進歩をなしことを證據に上げるが、其實減法界の高給を取つて贅澤をなすことが疑も無く日用品及諸物價の騰貴した一大原因である、而して今でこそ斯く米人の數が減少したけれども以前は三千人近くも米國の官吏が在留した時があるので、比律賓人は米人等が此國に來て高給を取れる間は比律賓人は何時までも獨立の能力なきものと言はれるに相違ないなど、被憎を言つて居たのである、デモクラット黨勝利以來米國の比律賓に於け



官長—タンベ—カ央中面前りな合會俗僧民官種人諸) 弟兄海四

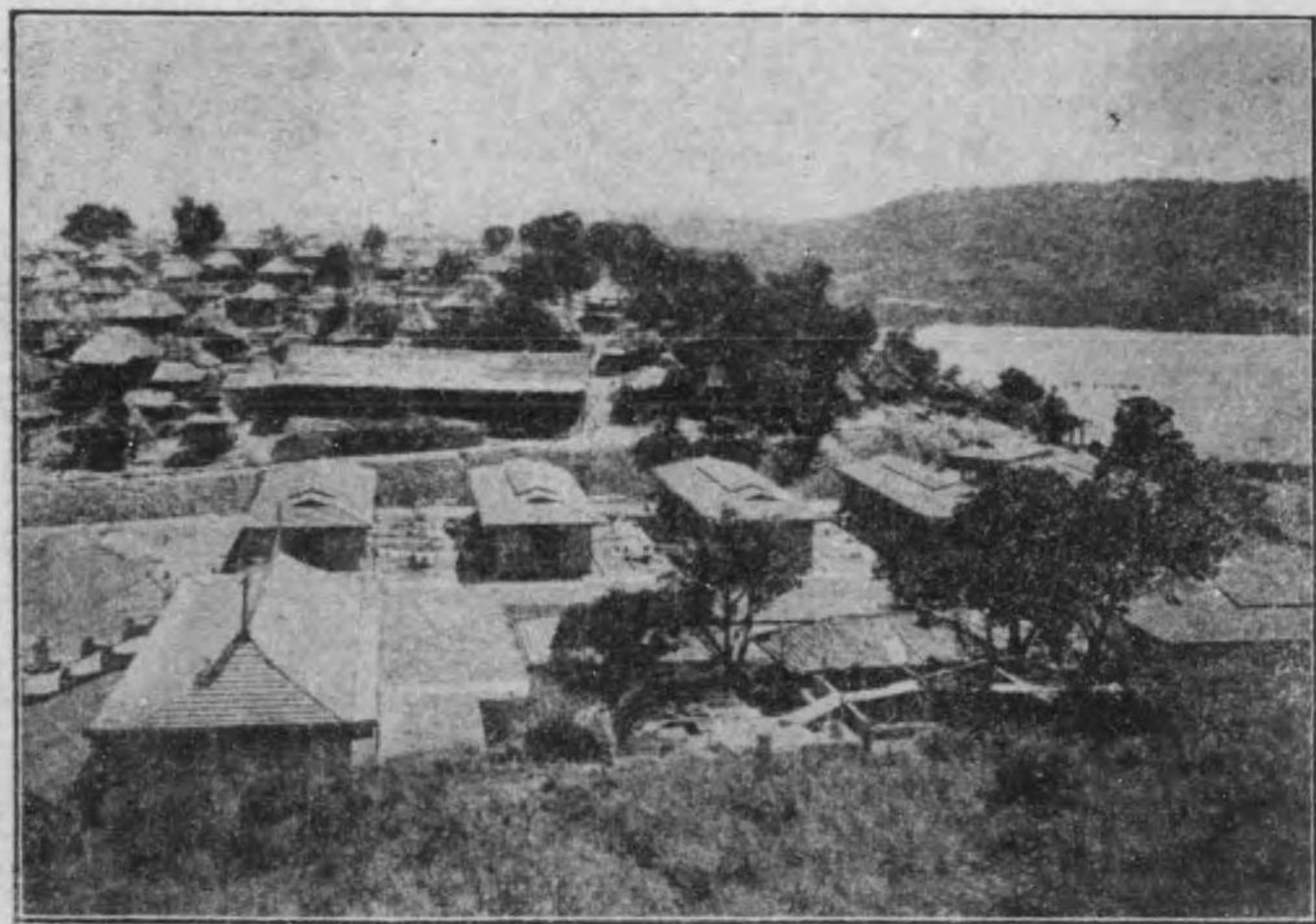
(氏ンロメヤキ男爵の後其)

る政策は漸次退却の一方であるから長く比律賓に在官したる米國官吏教員の輩も次第に本國へ歸り風、其處へ抜目の無いオスメニア君が退官手當の案を通過させて十年以上比律賓に在任した者は退官の際一年分の俸給を與へる、十年以下の者は之に準じて退官賜金を與へると云ふことになつたので、米人は急激に減少し始めた、而して比律賓の識者中には此不當なる俸給制度を廢したいと云ふ希望が追々盛んになつて來たのであつて大學總長ヴィラモア氏の如きは其日本視察報告書に日本官吏俸給の低き例を引いて之を論じ、ロサリオ判官なども大にこれを主張



して居る、今度の新議會で俸給案を改正して比律賓相應の給料に引下ぐれば亞米利加人は益々此國を去るであらうが、比律賓人と亞米利加人との感情の融和には餘程利目があらうと思はれる、尤も米人が比律賓に來て高給を取るとは米國でも其非難があつた、然し長い間故郷を離れて熱帶の地に勤勞するに就ては是れ位な手當は當り前と云ふことで、各州の知事の俸給なども米國各州の知事に負けぬ高給を取るのである、所が其知事が米人と比律賓人と差替つたので國力不相應な給料が著しく目に立つて來た、而して此給料は米國政府は一文も負擔せず全部比律賓人の肩に係るのであるから比律賓人たる者不平を言はざるを得ない譯であつた。

浪費のついでに一言するは彼のバギオの山道ベンゲットの開墾である、ベンゲットに避暑地を設けると云ふことは流石ウィスター氏の雄大な着眼であるが、比島新政の始めに當り此避暑地の爲四百萬圓乃至六百萬圓の大金を投じたと云ふことは何程負最眼に見ても緩急を誤つて居る、最初の豫算の如く十五萬圓位で出來ても山上の經營には猶何十萬圓を要するに違ひ無い、惡政から脱したばかりの比島には外に何程も金の使道は有る、フォーブス氏の夏都に至つては甚しい贅澤、マニラは元來夏季に於ける米國の如く甚しき暑氣ではない、而して

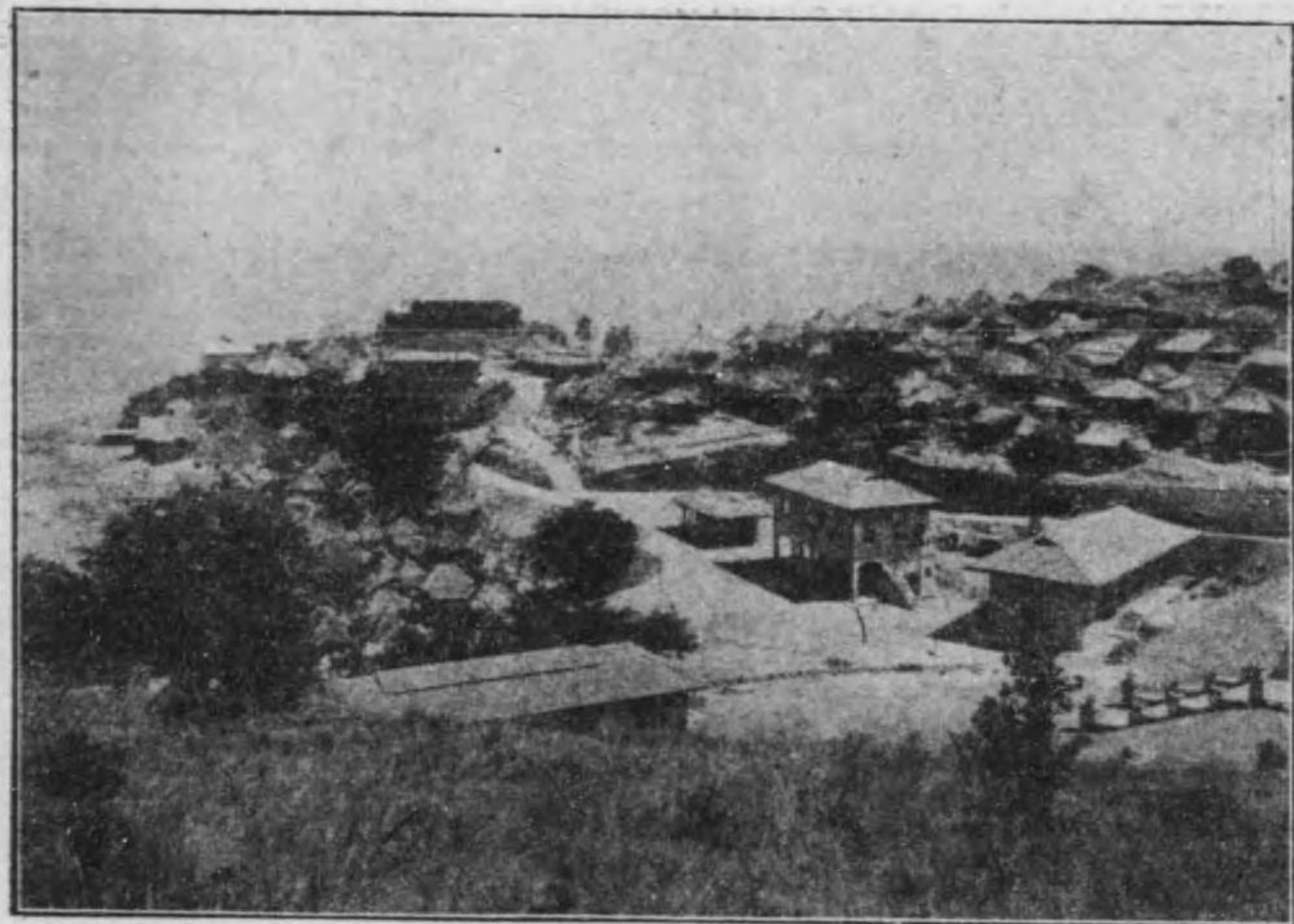


タリオン島癩療養所

米人は銳意其衛生状態を改善し、實際人間の住居に適する場所となつたのである、今の米人はマニラを以て健康地になりと大に誇つて居る、其健康地に居ながら年々巨額の金を棄て政府の總員を擧げて官費でバギオに避暑するの必要が何處にありや、バギオ山路に費したる費用を轉じ、産業教育の方面に費したら餘程な成績を擧げて居るであらうに、ウィスター氏は蕃族の懐柔に於て大功勞ある人で余は大に尊敬するが、バギオの一事は考が大き過ぎて大失敗である然し其責任の氏一人に歸せざるは勿論である。

それから今一つ無遠慮に言へば教團派所





ク リ オ ン 島 嶺 療 養 所

有地の買収も浪費である、教團派の僧徒が如何に比律賓人を苦しめたかは何れの米國人の著書にも悉く明記して有る、然るに唯彼等が羅馬法王の配下で有ると云ふが爲めに其横領した地面(全部で無くても)に對し比島人の金を出して買収したのは余輩甚だ不感服で有る。

併し余の一見したる所でも比律賓には吝たれた我々の爲し難はざる改良が施してある、オスマニア君如何に才物なりと雖も此十五年間米國人と云ふ一種變つた人間が比律賓を統治し其偉大なる頭腦に因つて費用構はずの計畫を實行するに非ざれば、今日の比律賓は出來ない事請合である、此點か

ら言へば假令十五年なりとも比律賓に自治を與へずして米人が群島を司配したのは後年に至れば却て大なる儲けものになるであらう、而して物は思ひやうで一方から言へば高い月給に相違無いが、亦他の一方から見れば米國で仕上げた人物を金で買て来て自由に使用したやうなものであるから高給必しも不經濟ならず、數十年の後に却て其廉價であつた事を發見するかも知らぬ、斯くの如く公平に觀察すれば從來の不折合は唯小なる感情の相違に過ぎず、大局より觀察すれば強大なる米國の保護の下に自治を行ふと云ふ今日の比律賓は、世界に於て類似のなき幸福なる位置にあるものである、國防の費用は一切之を負擔せず國民の力は擧げて之を内治の改良に用ゐるとは何たる好都合の事であらうか米國政府が若し比律賓に於けるが如く無料で國防を請合つて呉れるならば日本でも暫く御頼み申し度い位のものである。

扱て然らば獨立問題は如何、暫く打切りとするであらうか、余の見る所を以てすれば比律賓人は恐らく之を打切りとは爲まい、何となれば比律賓人は昔から一度も獨立國を營業した事のない國民である、而して獨立の美名は深く彼等を酔はしめて居るのである、或米人が云ふには數年前或田舎で米國の兵士が金庫を運搬して居つたら、其土地の人民が多數に群つて來て大層な箱だ其中に何が入つて居るか口々に尋ねる、兵士戯れに此中には比律賓の獨立が



入つて居ると言つたら、皆互に顔を見合せてさも「儲は此中に」と初めて合點したやうな風で有つたと云ふ、憲法發布を絹布の法被と間違へた作り話に似て居る、有りさうな事だが併し比律賓中の識者は恐らく獨立の價頗る高い事を承知して居るであらう、少くとも日本の歴史を讀み支那の近狀を觀察する者は、獨立と云ふことは容易に言ひ得可らざる事であると云ふことを知つて居るに相違ない、而も尙彼の人々が獨立を叫んで已まざるは未だ其味を嘗めた事がないからである、一旦其味を嘗むれば苦いことの甚いのに驚くかも知れぬが未だ知らざるものを知らんとし、未だ見ざるものを見んとし、未だ食はざるものを食はんとするは人間の常情であつて理窟を以て之を止むる事は出來ぬ、故に比律賓人も獨立の一語を米國より承認せらるゝまでは恐らく其獨立運動を休止することがなからうと思ふ、而して余は比律賓人の政治上に於ける熱心と其十五年間に現したる能力を見て、米國が獨立を與ふるも敢て甚しく危険ではなからうと思ふ者である、ジョンズビルの前文を見れば米國も既に其然ること承認して居るのである、然らば米國は果して何時獨立を與へるであらうか、余は何とも答へることが出來ない、併ながら十二人の高等官百數十人の官吏を有するが爲に年々五千萬圓以上の海陸軍費を費し、數隻の軍艦と一萬五千の軍隊を東洋に派遣し置くの必要は何處にあ

りやと言はざるを得ぬ、そこで余の結論は本年の大統領選挙に若しデモクラットが勝てば



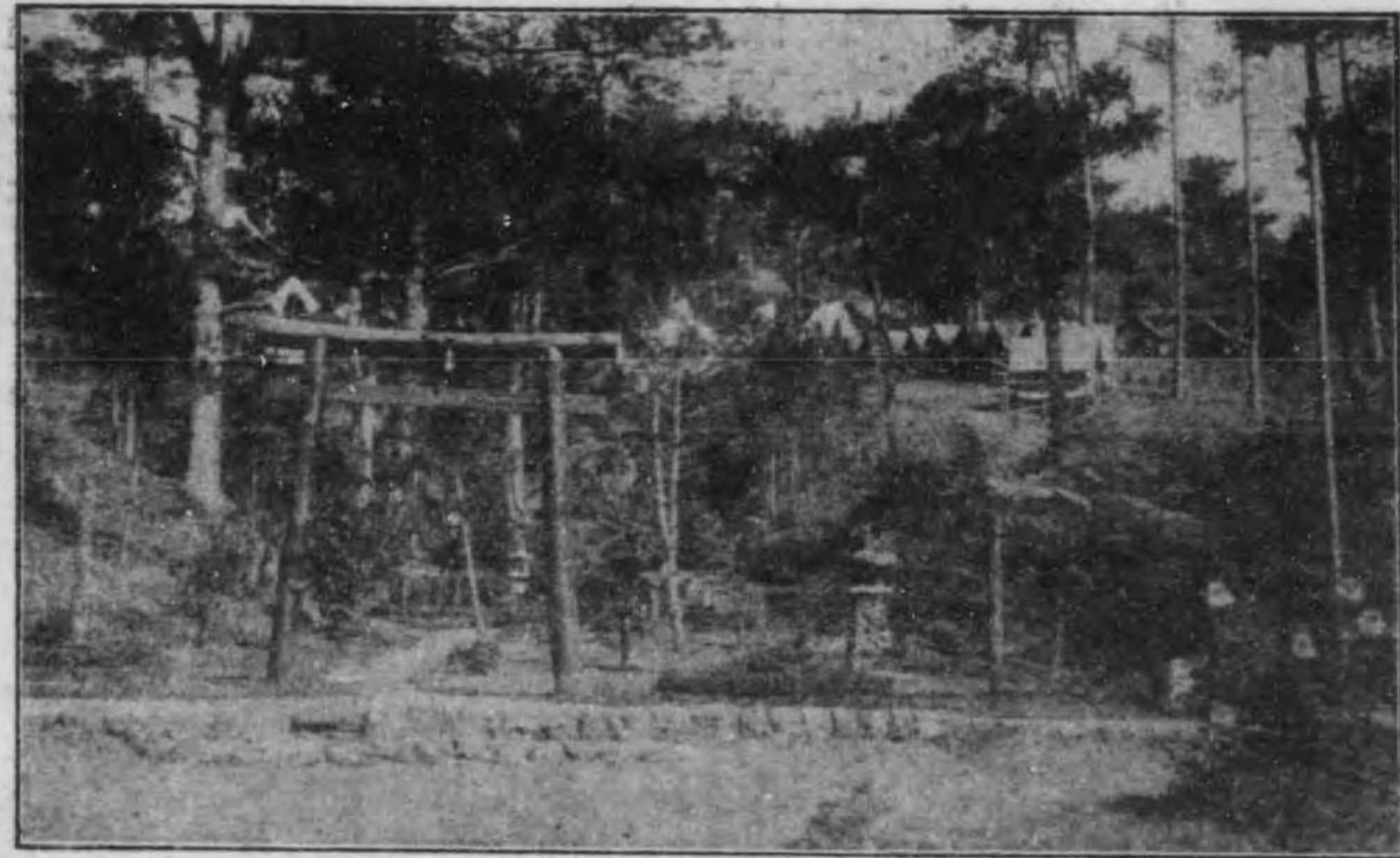
太田氏の一家

米國は近き將來に於て比律賓の獨立を承認すると猶キユバに於けるが如くするであらう、而して萬一の場合に再び其獨立を奪ふの權力を保留して置く事も同一であらうと、而して今此章を終るに臨んで一つの話を比律賓の教科書から此處に載録し比律賓人の參考に供し且讀者の深く此逸話を翫味せられん事を乞ひたいのである。

書物は「マレーシア動物」と云ふ本であるが、其オランダングウィタンの條に記して曰く、嘗て或オランダングウィタンの子供が二匹の小猫を友達として遊んだ、幼いオランダングは其小猫を脇の下に抱えて歩いたが、小猫は時々脇の下からすり抜けて背中から頭の上に這上り頭の上から又背中を這り落ちる、其這り落ちる時に猫の爪



で猿の背中を引掻くので猿は痛みを感じたが、其江り落ちるのが面白さに暫くは捨て、置いた、所が餘りに強く引掻くので不思議に思つて其小猫を捕へて足の先を調べて見ると鋭い爪が生えて居る、猿は是が背中中の痛い原因だと云ふことを知つて爪を引抜かうとした、却々抜けない、何様するかと思つて見て居ると又其儘其小猫を頭の上に載せ自由に背中を江り落ちることを許したと云ふのである、著者は此話に註して是と同じ話がダーウキンの人祖論にもある、其話ではバブーンの女猿が子供を失つて其代りに小猫を養つて居つた、或時小猫から引掻かれたので大に怒り小猫の足の爪を皆食切つて終つたと云ふのであると、此話は比律賓と米國との現状に例へられる、米國は猿である、比律賓は小猫である、ジョーンズビルの通過した所を見れば米國の猿は背中を引掻かれても小猫を可愛がつて又頭に上げて江らせるやうであるが、併し比律賓の小猫もそれを好い事にして餘りに強く亞米利加の背中を引掻くと、米國はバブーンの親猿の如く比律賓の爪を皆食切つて終ふかも知れぬ、亞米利加は比律賓人の想像以上の強國である、彼は寛大にして自由を愛するけれども、其富力と武力は比律賓人に對して如何なる事をも爲し得るのである、アギナルド將軍欺されの一條は前に言ふが如くジョーンズビルと云ふ證文に依つて既に片がついたのである、今後米國に對する比律賓人の



日本庭園師の仕事(オギバ)

態度は大に慎重を要する、被征服者の征服者に對するものならずして被保護者の保護者に對するが如き態度であれかしと望むのである、殊にレバプリカン黨の大統領選舉に勝ちたる場合は、然し時計の針を逆に戻せば時計は唯壊れるばかりであるから米國も大に考へねばならぬ。

### 日比關係

日本と比律賓の關係は本書の初にも一寸記したが三百年前は中々複雑で面白い事が澤山あつた、元來日本人の比律賓に行つたのは八幡船や唐渡り船ばかりで無く漂流人が随分行つた筈だと云ふのは、日本の東南方を北流する黒潮の隣に之に逆行する寒流が有る、我近海で吹流された船は暖流に



乗れば米國に漂着するけれども吹かれて暖流を外れると比律賓の呂宋に着くカガヤン、イロコス邊には此漂流者の子孫が必ず多からうと思ふ、それから彼の八幡船唐渡り、次に御朱印船次に切支丹の配流となつてマニラの日本在留者五百人、高山右近は槍を立て、市中を往來すると云ふやうな事になつたので有るが、其關係を一々述べるのは餘り枝葉に渉るから、大隈伯の開國大勢史でも見て頂くこととして、偕現在の日本と比律賓との關係は亦極めて明白なる事柄である、即ち日本は比律賓に向つて石炭、綿布、絹織物、燐寸其他雜貨類食品、七百萬圓を輸出し、比律賓より麻其他の農産物凡て同額を買入るゝもので貿易上餘り重要な關係ではない、併し比律賓より輸出する麻は日本に於て再製せられて眞田となり、再び外國へ輸出せらるゝもので比律賓は日本工業原料の供給地である、今や日本の工業は日を追ふて盛んになるばかりであるが、其工業の原料たる諸物貨は之を海外に仰がざるを得ぬ、濠洲の羊毛マニラの麻の如きは最も日本に必要なもので、今後は益々盛んに輸入せられねばならぬ、比律賓との關係は將來大に増大せんことを望むので有る、而して最近の調査に依れば日本人の比律賓群島に在留する者凡そ六千二百人之を職業及人員別にすれば左の如くである。

職業別

人員

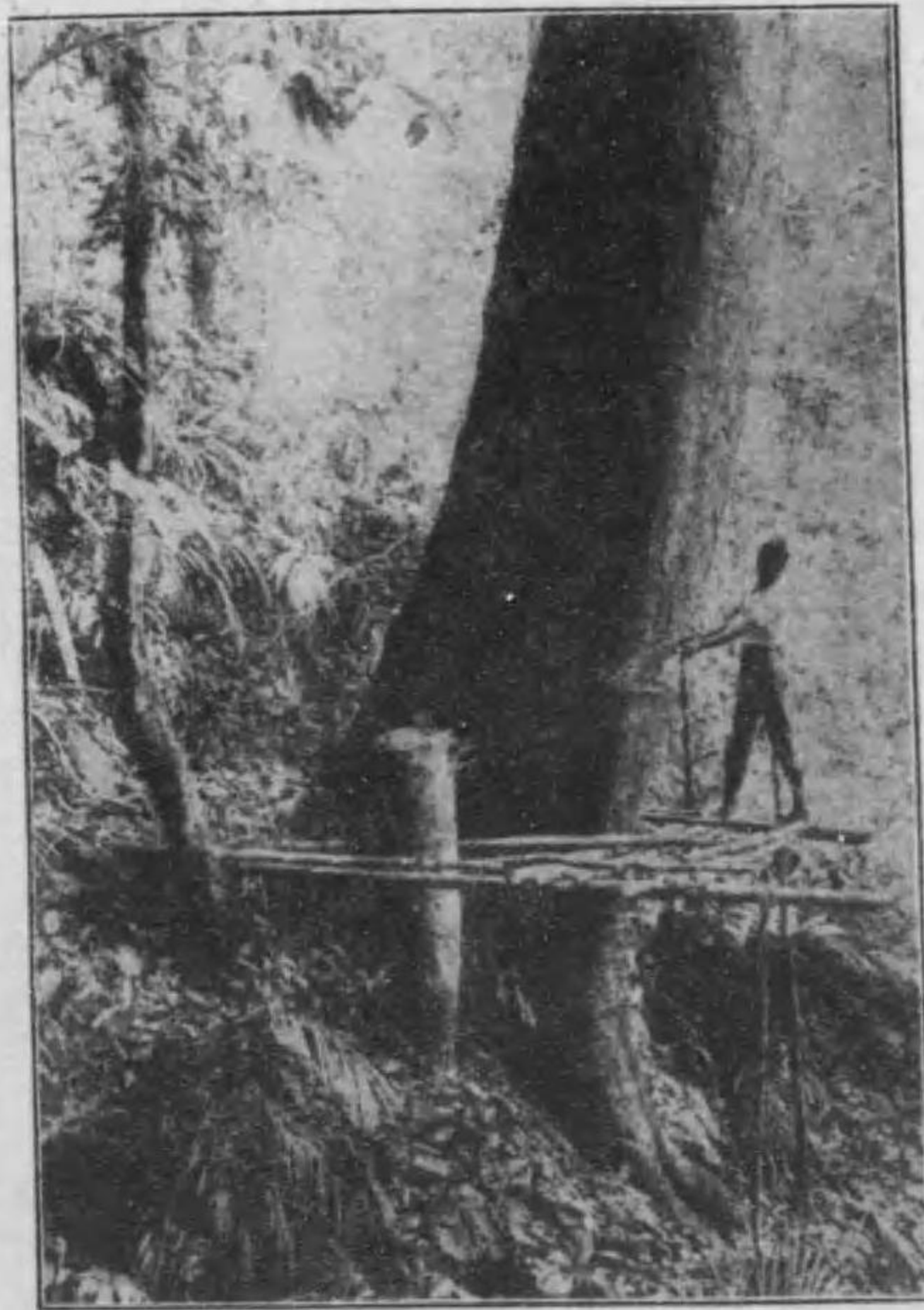
商人	五百人
農業	千七百五十人
漁業	五百人
工業	千六百五十人
家内労働者	四百五十人
雜業	九百五十人
其他	四百人
而して其在留する地方及在留人の數は左の如くである。	
マニラ地方	千九百五十人
ダヴァオ地方	千四百三十人
サンボアング地方	三百七十人
バキオ地方	二百九十人
カランバ及ロスバニヨス地方	二百七十人
ホロ	二百六十人



ミンドロ地方	二百人
イロイロ地方	百七十人
オロンガ地方	百五十人
アルバイ地方	百五十人
ストツチエンブルグ地方	九十人
セブ地方	八十人
南部クイスレ地方	七十人
バラ地方	七十人
マスバテ地方	七十人
バタンガス地方	七十人
ダグーバン地方	六十人
アルロイ地方	五十人
其他	四百五十人

等である、而して資本家の農業其他に従事する者二十數會社であつて、其資本は恐らく百

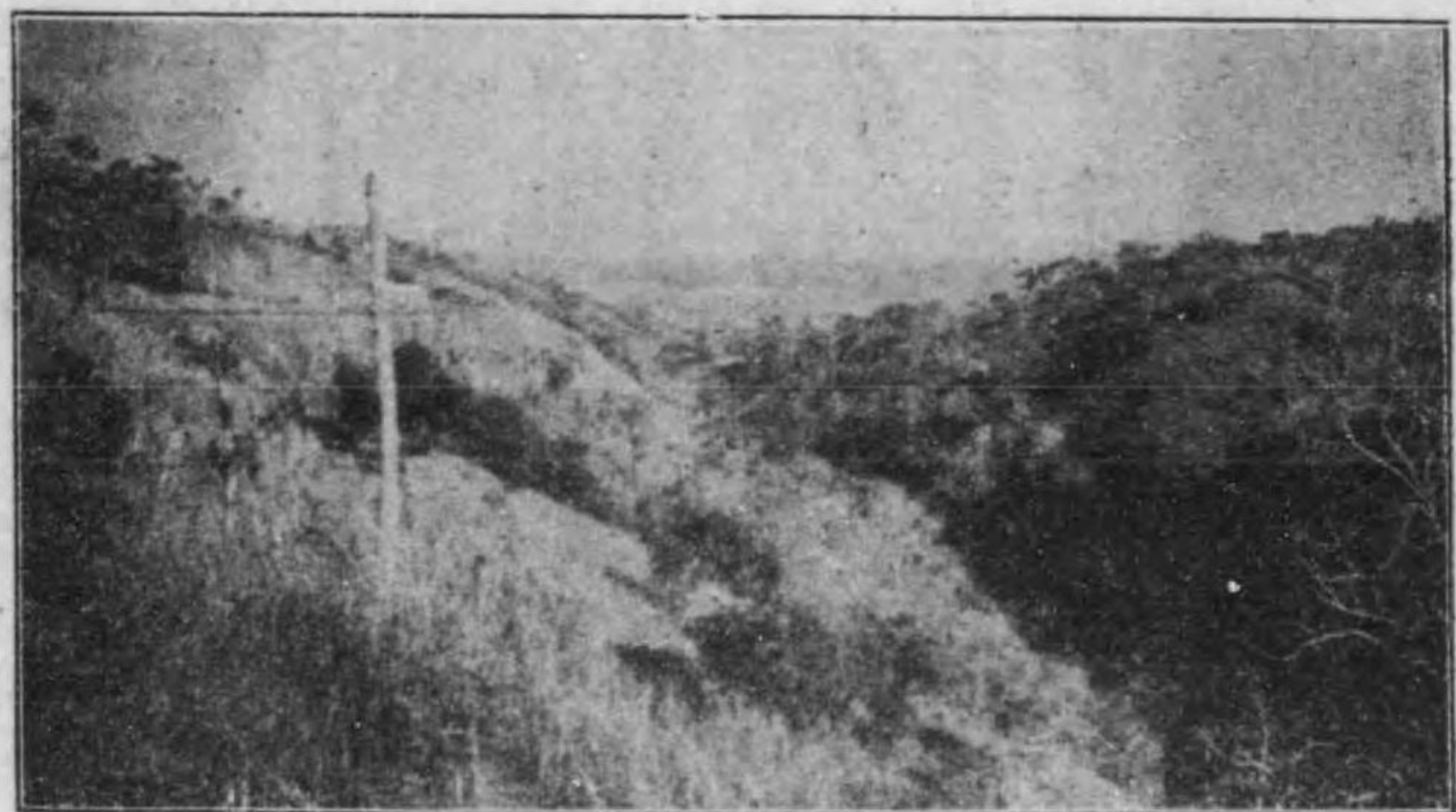
五十萬圓以上に達して居るであらう、此等の在留民は何れも温良なる人々で好く法律を守り稼業に出精して官憲の手續を煩す如き者は極めて稀である、就中大工は到る處評判が良く比律賓に於ける最も堅實なる職業となつたばかりか比律賓人に其感化を及ぼし、又技術をも傳へて自他共に利するの有様に立至つたのである、漁業の如きも又比律賓に缺く可らざる食用魚類を供給するものであつて、彼等の海上に於ける勇敢なる動作は内外人共に稱讚する所では是れ亦有益にして堅實なる職業となつて居るのである、何れ比律賓人も追々には漁業の技能を養ふであらうが、彼等が自ら海中に労働するまでは日本人が代つて彼等の職業を執ると云ふことも決して差支ない事である、農業の諸會社は多くダヴァオ地方に有て何



大木伐出し



れも健全なる發達をなしつゝあるが、其中にも太田興業會社の如きは、資本と云ひ人物と云ひ、實に立派なものであつて、其事業も文明的に秩序整然と經營せられ、多數の比律賓人も使用し成功顯著なるものである、本年六月二十二日サンボアンガ及スルの長官カーベント氏は持に會社に宛て、一書を裁し、先般長官がタロモ地方を巡視したる際、會社の農園を視察し、其發達の健全なるを認め、ミンダオ開發事業の大なる賛助者として其成功を祝する旨を告げた、而して長官は又其書中に於て、太田會社が巨額の資本を投じたるは一時的の營利事業に非ずして永久なる農園經營の目的を有するものなるを認むべく、同時に亦其事業に従事する農夫勞働者等が柔順にして良く法を守り善良なる農民の模範たる事を地方の官憲が承認したる事を喜ぶ旨をも告げたのである、斯くの如く日本人の事業は順境に進歩し、日本人と土人との間は何等不愉快なる衝突を來すことなき現状であるが、余をして更に一歩を進めて希望する所を言はしむれば、比律賓人が將來に對する遠見達識を以て更に進んで日本人と事業上に共同し、其天賦の富源を開發して東洋に一大樂園を建立せんとを望むのである、余の見たところフィリピン人も、山民も、モロも、日本人も總て同一種族の分裂したものの、其間には彼の濠洲の大政治家ヘンリー・パークスの言へる如く「紅の紐を以て結ばれたる」血



ア　ン　チ　ボ　ロ　の　鐵　道

縁關係があるのである、余は從來世界の各地を旅行して日本人に類似する人間を見たが、今回の比律賓旅行の如く故郷に歸り自己の家族に逢ふやうな感を得たことを未だ會てないのである、此同じ民族の間に久しく忘れられたる親族關係を復活せしめ、共に俱に文明進歩の大事業を恢弘せんことは余の熱心なる希望である、遺憾なるはモロ種族と比律賓人の間に其多年の歴史上未だ容易に融和し能はざる感情があるが如く見受ける、而して其相容れざるはモロ人よりも寧ろ比律賓人の方に多いかと思はれるのは宗教の然らしむる所であらう、何れの宗教にも偏せざる所の日本人は能く此兩種族を調和して相親睦せしむることも出來やうと思はれる、且つミンダオ地方の如きは西班牙時代に於ては比律賓群島政府の



領分たる空名を有し實際は他國同然であつたのである、然るに米人は十餘年間に其土匪を退治し、美しき文明の花を此荒土に開かしめんとしつゝあるので比律賓人は自治の外に大なる實を受取つたと言はねばならぬ、然るに此地方久しく天然の儘に抛棄せられたるが故に、今尙太古其儘の處が多く之を開發して眞の文明國たらしむるには數十年の努力と數千萬圓の資本を費やさねばならぬ、幸に此地方は椰子、麻、護謨等の栽培に適し其高地は牧畜にも適し若干の安全なる港灣も存在する、比律賓政府が其内地縦横に鐵道を敷設したならば此島開拓の業は必ず急速に其歩を進むるであらうと信ずる、日本の現狀は未だ米國の如く富有ではない、然し資本は次第に増加し、利息は低下して放資を外國に求むる所の資本も決して少くない、現に新嘉坡地方には千萬圓以上の日本の資本が投ぜられて居ると云ふことである、而して日本の農業は古來一定せる耕作法の行はるゝが爲に、狭き地面に多數の人手を要するのであるけれども、尙報酬の如何に依つては暫く他國に出稼して土地の開發に従事しやうと云ふ者も決して尠くはない、比律賓人にして適當の方法を以て日本の資本案農業者と連絡を通ずるに於ては、ミンダナオ州の開發も容易く行はるゝであらうと思はれる。

比律賓に於て將來有望なるは木材の伐出しで有る、今でも輸出重要品の一つで有るが、運

搬さへ自由に出來れば將

來大輸出品になるべき運

命を持て居る、政府の調

によれば全島面積の半分

は森林で其森林の三分の二は千古斧斤入らざる

の蒙林で有る、木の種類は建築材料に適する堅

木ラウアン、アビトン、ヤカル、マンガチャツブ

イ、イホ、カラントス、ルンバヤオ、家具及裝

飾品に適するナラ、アークル、チンダロなどで、

總量二十億方呎ほどの實が山の中に存在すると云ふことである、建築材料は千方呎(一時板)

で製材所渡し六十圓から百六十圓位だと云ふから、戦後海運の氷結が融けると木材の高い支

那、日本には盛に輸入さるゝやうになると思ふ、此事業は從來米國人も手を出したが、米人

は本國に澤山の仕事があるから、餘程の利益が無ければ腰を据えて永くやらぬ、交通の不便

と勞力の缺乏との爲めに、今は其事業を中止したのも見受ける、木材業の如きは最も日比



信電線無の口ホ



人の協同經營に適するものと考へられる。

鑛山は餘り見込が無いが是も日比協同なら必ず行れるところが有る、但し石炭は米人も手を焼いた位で有つて、若いから駄目だが金山は現に米人も掘つて居る、マスバテのアロロイなどは砂金と鑛石と兩方で相應の利益を擧げて居る由、アルバイの島にも砂金採取所が有る、其外砂金は到る處に有るらしいが、引合ふや否や疑問で有る、サンボアンカから四十哩ばかり東方の山奥に砂金の出ると云ふ谷が有つて、日本人中の冒険者が食物を擔いで兩三回立籠つたがまだ何も出ぬ、尤も一目小僧が出ると云ふ噂で冒険家も少々恐れて居つたが、其實先年同所を掘つて見た一米人がダイナマイト爆發の爲片手と片眼を失ひ、辛うじて逃歸つた事があるから其男の事を蕃人が一目の化物と云ふので有らう、兎に角砂金は噂ばかりで物にした者は少い、唯滿俺は慥にイロコスの北岸に出る、是は濠洲人コンナ氏が採掘して居る、それからマウンテン州のマンカエンに古い銅山が有つて、近頃其試掘權所有者が藤田組へ交渉し、技師に調査をして貰つたが、如何様なつたか、是は西海岸のタクヂンから鐵道を架ければ物になる、唯問題は鑛量の如何に在る鑛山も日比協同は面白からうと考へるが、交通の不便と棧橋料(輸出税は無いが、棧橋料は總て輸出品に掛けられる一噸二圓で有る)とが大なる

妨碍物で有る、産業發達の爲には大容積の物品だけでも棧橋料を撤廢するが好からうと思ふ。

斯う云ふ話の序で一應辯じて置かねばならぬのは、時々米人の間に行はるゝ日本の比律



(匠意の己自は服被)裝盛のソタルソロホ

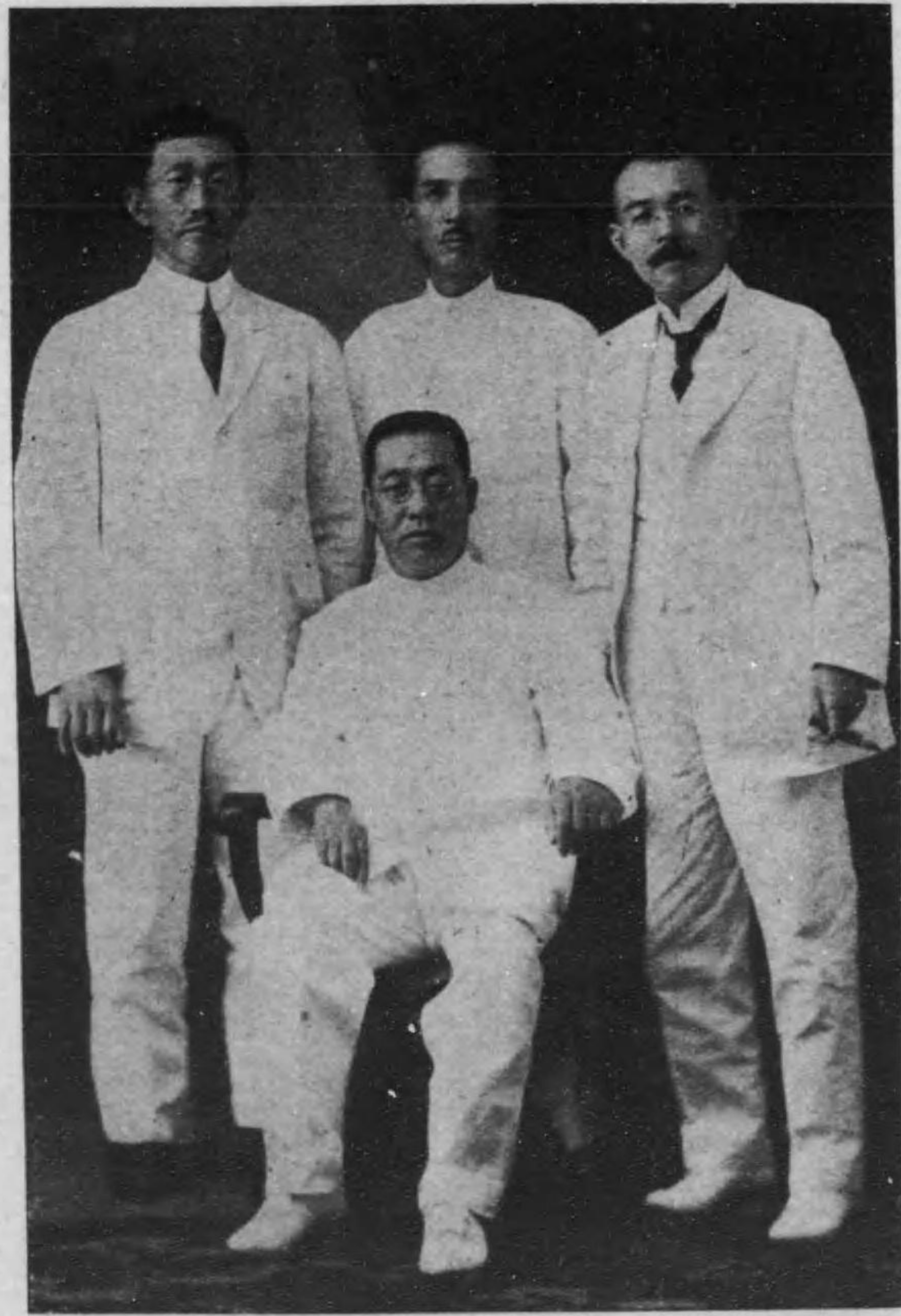
賓侵略説である、現に今回ジョーンス・ビルの米國議會に討議せらるゝに當つて、上議員中頻に日本の野心を云々して之に反對したのもあつた、日本侵略を唱ふるは米國人の病氣かも知れぬが、さりとは大國民にも不似合なる態度と言はねばならぬ。

米人は何故に日本人を以て比律賓侵略の野心あるものとするであらうか、眞逆太閤脅迫狀が今まで利いて居る譯でも無からう、實以て解し難い事である、尤も米人は其淡泊なる氣質と



其白人中の雄者であると云ふ自慢から東洋人を愚弄するのを面白がる傾も有るが、子供が昆虫を玩弄にする如く扱はるゝのは中々迷惑な事である、米人は日本が臺灣を支那から割取したから比律賓をも又狙つて居ると云ふのであるか、米國は墨西哥と戦つてカリフォルニアを割取し西班牙と戦つて比律賓を割取したではないか、又朝鮮を併合したから比律賓をも併合すると云ふならば亞米利加はそれより先に布哇を併合したではないか、白人が物を取れば拜借東洋人が物を取れば盜賊と云ふ道理が無い以上、なんぼ戯でも其様な勝手は言はさぬ、吾はペルリが日本に來たのは米支貿易の爲めで、加之和戦兩様の準備をなして居つた事を知つて居る、然し彼が能く日本を理解し日本人を遇するに米國と對當の國民を以てし、而して渡來の日本心に及ぼせる影響から見て之を日本開國の一恩人とし日本でも感謝して居るのである、然るに米國人は未だ嘗て米國に向つて何等の惡戯をも試みざる日本人を捉へ、自國の領土たる比律賓を窺ふものなりと公言するは随分甚しき仕方では無いか、支那人の語に國清うして才子貴く家富んで小兒驕ると云ふことが有る、米國は金持だから小兒輩が威張り過ぎる傾が有る、大人連はちと彼等に行儀を教へるが宜しい。

余は斯くの如き考から此度も旅行中屢々米國人と此事に就て話して見たが、或米人は余の



眞寫念記のラニマ  
(者著央中 氏長義神三 氏郎三恭田太 事領村杉りよ右てつ向)



爲に此日本侵略論者を分析して左の三種に分けて呉れた、

第一は比律賓人を嚇さんが爲に日本を道具に使ふもの、

第二は比律賓を以て到底獨立の力なきものとしてどの途外國の領土となるならば日本に取らせるのが好いと考へるもの、

第三は日本に比律賓を併呑させて日本比律賓兩方の苦しむのを見物せんとする惡戯者。

其第一は彼の西班牙の僧侶がデユエー艦隊の來た時比律賓人を西班牙の味方にしやう思つて亞米利加と云ふ國は各國の無賴漢の集合だから神を恐れるやうなものは居らぬ、彼等が押込んで來れば比律賓中の寺院は盡く破壊されて了ふから、お前方は西班牙人に附いて米人を防がねばならぬと云つたが、これと同じ筆法で比律賓人に向つて日本が取りに來るぞ、攻めて來るぞと言ふと米人に都合が好いと思ふもの、米人中の糟粕の言ふことである、第二は少し理窟が有る、即ち若し亞米利加が獨立を承認し軍隊を上げた時は各國の軍艦はマニラ灣に集る、而して針の轉んだやうな事を口實にして兵士を上陸せしめ強硬なる要求をなすと獨逸が膠洲灣を取つた時のやうで有らう、然らなると比律賓政府如何にして之を防ぐことが出來やうか、英に非ざれば獨、獨に非ざれば佛、佛に非ざれば日本の爲に比島政府は首玉を押へ



付られて其右左する所となるのは明かである、果して然りとすれば何れの國に取らせるが一番合衆國に取つて損害が少いかと云ふに矢張日本である、日本をして比律賓を取らしめれば、彼等其經營に忙殺せられ合衆國に向つて移民を送り若くは戦を挑むやうな暇が無くなる、故に日本をして比律賓を取らしむるのが最も得策であると云ふのである、第三は又面白い苦肉策で有る、初め輕侮して居つた比律賓人が存外抵抗力に富み、且又政治上には却々の手腕を有し、且つ其性質は極めて短氣で子供でも憤激すればナイフで人を刺す様な風だから統御に困る、而して氣候は温熱で到底白人の住し得べき處でない、又之を開かんとするには非常の資本が要つて容易な事では開拓も出来ない、併し比律賓人も散々亞米利加の保護を受け亞米利加人の御蔭で國土を開發しながら其思も思はずして益々亞米利加人を憎むことは甚だ癪に觸る、そこで行がけの駄賃に此國を日本に呉れてやるのが一舉兩得と云ふのは、日本人が乃公の手腕見るべしと得々としてやつて來ると案外比律賓人が手強くて大に弱らされるに違ない、所が未開なる日本人の事であるから必ず東洋式の專制政治を行ひ、兵力を以てビシ／＼比律賓人をやり付ける、今度は比律賓人が困つて泣出す、詰り生意氣なる比律賓と成上り者の日本を喧嘩させてさうして此方は高見の見物と洒落てやるのは面白いと云ふやうな考ださ

うな。

成る程斯う分類して見ると米人の日本侵略論も樂屋が見えて可笑くなる、併し甚だ遺憾なるは此三つとも悉く「日本は外國を侵略するものである」と云ふとを前提として構造せられた説であることである、前にも言ふが如く日本が臺灣朝鮮を割取併合したのが侵略であるならば米國がカリフォルニア布哇比律賓を取つたのも侵略である、それだけの理由では二百七十年の太平を保つた日本に侵略的國家の札を付け變らさな米領窺論を立つることを許さぬのである、勿論日本にも南進論者と云ふ者があるが、資本も持たず勞働もせず筆を持つて紙に議論を書く人が南方經路など、云つても恐い筈は無い、又炬燵に當つて西比利亞を取るべしと論じ函根邊で涼みながら熱帶略すべしと云ふの類も少々有る、米人中にも英國の領土加奈陀を取らうとか日本を何様かしやうなど云ふ先生が居るでは無いか、議論ばかりで南方侵略が出来るなら米國の東洋人排斥論者は疾くに日本まで攻込んで居なければならぬ筈である、左様な事は一場の茶話には適するけれども堂々たる世間の議論としては少しも採用する價値がないと言はなければならぬ。

以上の如く觀察し來れば日本侵略論は畢竟米國の閑人が勝手に想像し勝手に唱へ出したる



空想であつて、眞實の日本とは何等の關係もなきものである、若し比律賓人にして此書を讀まれんには願ぐば此等の議論に頓着なく健全なる米國人及健全なる日本人を相手として、恐れず撓まず將來眞實に其國の獨立の出來るやうに努力せんことを希望するのである、凡そ獨立なるものは必しも軍備の如何に因らぬ、近來往々にして白耳義が獨逸から侵略せられたるを見て白耳義は小國であるが爲に其獨立を蹂躪せられたと云ふ論者もあるが、白耳義人は國土を失つても白耳義國は失はない、是即ち白耳義人に獨立國民たるの氣魄精神が備つて居るからである、彼の歐洲の西班牙や伊太利中にある所の小なる獨立國の如きも、皆各其獨立し得べき要素を備へて居るが爲め小なりと雖も獨立を保つて居るのである、其小さな實例は日本の歴史には古來幾らもある、人間が正義なるものを忘れて悉く野獸の如く争闘する世の中とならばいざ知らず、然らざる限りは正義の力は武力と同等に一國の生命を保たしめるのである、比律賓の如きも此方面より其獨立を求むれば、必しも日本に匹敵するが如き大軍備、備へずしても獨立の樂天地に躍出でることが出来るもので有る。

### 比律賓跋涉 下終

欠



# 欠

一、監督者給料	一人一ヶ年分	三、〇〇〇比貨
一、常雇人夫三人分給料	一ヶ年分	一、二〇〇同
一、臨時費	前年度同斷	一、五〇〇同
一、果實採集及び「コブラ」製造費	前年度同斷	四〇四同
合計		七、九〇四同
第二年収入		
一、「コブラ」賣上代	五四擔	二、八三二同
一、小作人除草耕作手當	第三年支出	
一、監督者給料	一町五比貨の割	一、五〇〇同
一、常雇人夫三人分給料	一人一ヶ年分	三、〇〇〇同
一、臨時費	一ヶ年分	一、二〇〇同
一、果實採集及び「コブラ」製造費	前年度同斷	一、五〇〇同
合計	同上	四〇四同
第三年収入		
一、「コブラ」賣上代	前年同斷	二、八三二同
一、小作人除草耕作手當	第四年支出	
一、監督者給料	一町五比貨の割	一、五〇〇比貨
一、常雇人三人分給料	前年同斷	三、〇〇〇同
一、臨時費	同	一、二〇〇同
一、果實採集及び「コブラ」製造費	前年同斷	一、五〇〇同
合計	同上	四〇四同



合 計 七、六〇四比貨

第四年収入 三五四擔

一、コブラ」賣上代 二、八三二同

第五年支出 三、〇〇〇同

一、監督者給料 一、二〇〇同

一、常雇人夫三人分給料 一、五〇〇同

一、臨時費 四〇四同

一、果實採集及「コブラ」製造費 六、一〇四同

合 計 六、一〇四同

第五年収入 二、八三二同

一、コブラ」賣上代 二、八三二同

第六年支出 三、〇〇〇比貨

一、監督者給料 一、二〇〇同

一、常雇人夫三人分給料 一、五〇〇同

一、臨時費 六九一同

一、果實採集及「コブラ」製造費 六、三九一比貨

合 計 六、三九一比貨

第六年収入 四、八四八比貨

一、コブラ」賣上代 四、八四八比貨

「本年に至りて植付後二ヶ年を経過したる千二百本より結實を始むるも初年目なるを以て各六十個を收穫するものとして合計七萬二千個の果實を得之れを最初の參百五拾四擔と合せて計六百六擔の收穫となる壹擔八比貨宛に賣拂ふと計上せり。」

第七年支出 三、〇〇〇比貨

一、監督者給料 一、六〇〇同

一、常雇人夫四人分給料一人を増す一ヶ年分 一、五〇〇同

一、臨時費 六、六一二同

一、果實採集及「コブラ」製造費 一、五〇〇同

一、コブラ」製造所建設費 三、〇〇〇同

一、コブラ」荷造用麻袋代 一七、二二二同

合 計 一七、二二二同

第七年収入 五、千七百八十五擔 四六、二八四同

一、コブラ」賣上代 半一擔八比貨宛

「植付後七年目なるを以て新舊樹数の總計は貳萬七千五百五拾本なり樹の多数は初年目なるを以て新舊平均一本の結實数を六拾個と計算して百六拾五萬參千個の果實を得各千個の果實より三擔半の「コブラ」を産出せば五千七百八拾五擔半を收穫し此れが賣却一擔八比貨替と計上す。」

第八年支出 三、〇〇〇比貨

一、監督者給料 三、六〇〇同

一、常雇人夫十人分給料 臨時の費用加はるを以て千圓を増す 二、五〇〇同

一、臨時費 二、〇〇六、二五〇同各八、二六九同

一、果實採集及「コブラ」製造費 一、〇〇〇個に付四比貨三、六〇〇同

一、コブラ」荷造用麻袋代 二〇、九六五同

合 計 二〇、九六五同

第八年収入 七、二三二擔 五七、八五六同

一、コブラ」賣上代 一擔八比貨宛







此計算は百ヘクタール即ち百町歩の耕地を拂下げ一年に二十五町歩づゝ四年間に之を開墾し終るものと見て計算を立てたり開墾耕作其他の費用は耕地所在地の事情に因つて増減あるべし此耕地にて使用する労働者の賃銀は米衣服其他の物品を以て支拂ひ得べきものとす此計算は千九百九年十二月の物價を以て標準として算出す。

マニラ麻耕地收支豫算表

比島政府農務局調査

計	第一年至第六年					合計
	同六年	同五年	同四年	同三年	同二年	
収入	一九、〇〇八	四、八四八	二、八三二	二、八三二	二、八三二	二九、〇七二
支出	六七、一六一	六、三九一	六、一〇四	七、六〇四	七、九〇四	一〇五、三三八
損失	四八、一五三	一、五四三	三、二七二	四、七七二	五、〇七二	四八、一五三
利益						一七、八一〇

マニラ麻耕作收支概算表

第一年		第二年支出	
一百エーカー買入費 十回換	一九、〇〇八	一〇〇〇圓	
二十五町歩開墾費 四十回換	四六、二八四	一〇〇〇圓	
二萬五千本アバカ苗買入費 千本に付四十回換	五七、八五六	一〇〇〇圓	
耕転及植付費	二〇、九六五	一〇〇〇圓	
二十五町歩耕作費 一町十回換		二五〇圓	
垣根及道路代		八〇〇圓	
カラバオ三頭八十回換 馬二頭 五十回換		三四〇圓	
一家屋建築費(支配人住宅八百間使用人宿舍二百間)		一〇〇〇圓	
支配人給料		三二〇圓	
土人監督給料		三六〇圓	
機械及器具代		二〇〇圓	
測量費		二五〇圓	
總計		九四四五圓	
二十五町歩開拓費		一〇〇〇圓	
二萬五千本アバカ苗買入代		一〇〇〇圓	
耕転及植付費		一二五圓	
五十町歩耕作費		五〇〇圓	
垣根及道路代		八〇〇圓	
支配人給料		三二〇圓	



一土人監督給料 三六〇圓  
 一機械器具動物家屋償却費 三四〇圓  
 總計 七二四五圓

第三年

一二十五町歩開拓費 一〇〇〇圓  
 一二萬五千本アバカ苗買入代 一〇〇〇圓  
 一耕耘及植付費 一二五圓  
 一耕作費 第一年の分 三七五圓  
 一耕作費 第二年の分 五〇〇圓  
 一支配人給料 三一二圓  
 一土人監督二人給料 六〇〇圓  
 一使用人宿舎建増 一〇〇圓  
 一機械動物償却代 三四〇圓  
 一二百五十ビクルの麻運搬費 二五圓  
 總計 七一八五圓

收入

二十五町歩の收穫二百五十ビクル（農作の半額と見積り）之に對する代金（一ビクル十四圓の計算）の一半を麻引に拂  
 渡し残り 一七五〇圓  
 差引三年目の不足 五四三五圓  
 第四年  
 一二十四町歩開拓費 一〇〇〇圓  
 一二萬五千本苗買入代 一〇〇〇圓

一耕耘及植付費 一二五圓  
 一第一年第二年分耕作費 七五〇圓  
 一第三年第四年分耕作費 五〇〇圓  
 一支配人給料 三一二圓  
 一土人監督給料 六〇〇圓  
 一收穫七百五十ビクル運搬費 七五圓  
 一器具償却代 三六〇圓  
 一器具購入代 二〇〇圓  
 總計 七七三〇圓

收入

二十五町歩の收穫五百ビクル他の二十五町歩の收穫二百五十ビクル合計七百五十ビクル七圓換として  
 五二五〇圓  
 差引第四年不足 二四八〇圓

第五年

一五十町歩耕作費 一〇〇〇圓  
 一五十町歩耕作費 五〇〇圓  
 一支配人給料 三一二圓  
 一土人監督給料 七二〇圓  
 一器具償却代 四〇〇圓  
 一修繕改良建増等の費用 二〇〇圓  
 一千二百五十ビクルの麻取扱運搬費 一二五圓  
 總計 六〇六〇圓



収入

五十町歩の收穫千ビクル二十五町歩の收穫二百五十ビクル合計千七百五十ビクル七圓換として

差引利益

第六年

一七十五町歩の耕作費

一五〇〇圓

一二十五町歩の耕作費

二五〇圓

一支配人給料

三一〇圓

一土人監督給料

七〇〇圓

一收穫千七百五十ビクルの麻運搬費

一七五圓

一器具償却代

四〇〇圓

合計

六一六五圓

収入

七十五町歩收穫千五百ビクル二十五町歩收穫二百五十ビクル合計千七百五十ビクル七圓換として

差引利益

第七年

一一百町歩耕作費

二〇〇〇圓

一支配人給料

三一〇圓

一土人監督給料

八〇〇圓

一收穫二千ビクルの運搬費

二〇〇圓

一改良費

二〇〇圓

償却費

合計

収入

百町歩の收穫二千ビクル七圓換として

一四〇〇〇圓

差引利益

六七二〇圓

麻小作收支計算書

太田興業會社調査

計算の基礎 普通日本労働者一人(獨身者)にて小作し得る麻畑面積を平均貳町歩とし「マニラ」麻貳千株を植付くるものとす開墾より第一期收穫迄二十一ヶ月を要す。

森林伐木燒拂より植付迄

三ヶ月間

植付より第壹期收穫迄

十八ヶ月間

右二十一ヶ月間に要する必要資金左の如し。

一金六拾圓

麻種子貳千株(千株金參拾圓替)

一金百六拾八圓

小作人二十一ヶ月間食料(月八圓の割)

一金拾八圓

斧其他農具食器代金

一金拾圓

宿舍建築費 但五人位共同して宿舍

一金四拾貳圓

一棟建築費一人負擔拾圓

尙此二十一ヶ月間には間作より生ずる收穫物あるを以て多少の臨時出費を生ずるも之を補填することを得

合計金貳百九拾八圓也

開墾より二十一ヶ月間の労働終了後第壹期收支左の如し。

第壹期收支(渡航後第三年目に相當する滿一ヶ年間)



収入の部（二十ヶ月より次の一ヶ年間）

一金五百圓 麻貳拾擔 壹擔（百斤）

本期の収入は初期なるを以て普通半額即ち壹町壹千株に付麻拾擔の割合とせり。現今ダバオに於ける麻の時價は參拾四五圓見當なるも計算の安全を期し本計算は最低貳拾五圓の割にて計上す。

支出の部

一金五拾圓

小作料（收穫の一割）

一金九拾六圓

拾貳ヶ月間食料（月八圓の割）

一金貳拾四圓

醫藥其他小遣金

一金貳拾四圓

衣服其他

最初二十一ヶ月準備時代には此費用なきも渡航當時持參の衣服等破損し之が補充を要するを以て此費用を計上す

小計金百九拾四圓也

差引収入超過金參百六圓也

第貳期收支（渡航後第四年目に相當する滿一ヶ年間）

収入の部

一金壹千圓

麻四拾擔 壹擔（百斤）金貳拾五圓替

本期より普通收穫即ち壹町步千株に付貳拾擔の割合とす四拾擔は一人にて挽き得らるゝ麻の高

支出の部

一金百圓

小作料（收穫の一割）

一金九拾六圓

拾貳ヶ月間食料（月八圓の割）

一金貳拾四圓

醫藥其他小遣金

一金貳拾四圓

衣服其他

小計金貳百四拾圓也

差引殘金七百五拾六圓也

純手取金

第貳期より第拾期（十年目）に至る收穫は第貳期收穫と同一にして第拾期即ち第壹期以後滿拾ヶ年を経過すれば漸次收穫の減少を來すべきを以て普通新に植替を行ふを利益とす故に普通麻の經濟的生命を滿拾ヶ年とす。

今左に第壹期より第拾期迄即ち拾ヶ年間の収入を計上すれば

第壹期收穫より生ずる純益金參百六圓	
第貳期	七百五拾六圓
第參期	七百五拾六圓
第四期	七百五拾六圓
第五期	七百五拾六圓
第六期	七百五拾六圓
第七期	七百五拾六圓
第八期	七百五拾六圓
第九期	七百五拾六圓
第十期	七百五拾六圓
合計金七千壹百拾圓也	

一、右は農夫男一人にて小作に従事する場合の収入計算なれとも夫婦と拾四五歳の子供一人位の家族にて小作をなす場合は優に前記収入の三割以上の増收を得べき途あり。

一、麻耕作は其經營地の如何に依り開墾の難易及其收穫量に大小の差異あるを以て容易に標準を得難し本計算はミンダオ島ダバオに於ける太田興業株式會社が同地に於ける多年の實驗を基礎とせるものなり。

一、麻畑壹町步に對し開墾より第壹期收穫に至る迄に必要な勞力を夫役にて示せば約左の如し（但し夫役は普通日本労働者標準）

茶林伐木及雜務

30人乃至50人



個人に受負はしむれば却て經濟的なり。  
 農耕後の掃除及植付 30人乃至40人  
 植付後第一期收穫に達する迄の 30人乃至60人  
 除草六回 98人乃至150人

前記の通り一町歩に要する夫役は九十六人乃至百五十人なれば二町歩に要するものは之が倍數即ち百九十二人乃至三百人を要すされば農夫一人の二十一ヶ月間の労働し得べき延日數は六百三十日なれば麻耕作以外間作又は賃仕事をなし臨時収入の途あり。

一、麻收穫期

收穫期に入ると云ふも米麥等の如く定まりたる季節なく全部一時に收穫期に達するにあらざ年中を通じて毎日收穫し行くものなれば一時に多數の人手を要せず米作等の如く植付時又は收穫期には多數の夫役を要するも中間は仕事なく無駄に遊ぶと云ふ不便なく農夫一人の勞力が繼續的に有効に使用せらる。

一、小作料

收穫物の一割は小作料として地主に納付す

一、小作人が小作料以外に地主に對する義務ともいふべきは收穫物賣却の際地主へ先取權を與ふることなり尤も販賣價格は小作人の自由意志に一任す。

一、小作權の賣買譲與

收穫期に達したる(植付後拾八ヶ月經過)麻畑町歩の小作權賣買價格は麻相場如何に因り高低あること勿論なるも普通五百圓乃至八百圓也

但し小作權賣買譲與は地主の承諾を要す。

(備考)比島通貨は「ペソ」なるも價值我「圓」と同一なるを以て本計算には圓を用ひたり。

大正六年一月十二日印刷  
 大正六年一月十五日發行

比律賓跋涉  
 定價金貳圓



著者 土屋元作

發行者 株式同文館  
 東京市神田區表神保町貳番地

右代表者 森山章之丞

印刷者 中田福三郎  
 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式秀英舎第一工場  
 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所 東京市神田區表神保町貳番地  
 電話本局四三三七三  
 振替貯金口座東京一三六三五番  
 株式同文館  
 大賣捌 東京神田同文館  
 東京牛込大阪南區朝鮮京城  
 同文館大阪寶文館日韓書房

1921  
 1920  
 1919  
 1918  
 1917



終